



音声から文字への ゆるやかな5ステップス



大阪教育大学 柏木賀津子
-2017年1月-

音声から文字へのゆるやかな 5 ステップス

目次

扉	-----	1
ステップ 1 (1・2年)	-----	2
CLIL コーナー	-----	5
ステップ 2 (3年)	-----	6
CLIL コーナー	-----	9
ステップ 3 (4年)	-----	11
CLIL コーナー	-----	15
ステップ 4 (5年)	-----	16
CLIL コーナー	-----	23
ステップ 5 (6年)	-----	25
CLIL コーナー	-----	35
海外の子どもたちの学びの様子	-----	36
5 ステップスを終えた中学校 1 年生向けの活動	-----	40
指導資料&ワークシート	-----	42
CLIL の理論・実践	-----	60

本手引きの考え方-----72

参考文献・編集後記-----73

ステップ1 音韻を体で感じる活動 絵本に耳を傾ける活動 (1・2年) (中1)

ステップ2 アルファベット大文字の形 名前読み 絵本の音声を真似る活動 (3年) (中1)

ステップ3 アルファベット小文字の形 仕事読み 絵本の音声を真似る活動 (4年) (中1)

ステップ4 アルファベット大文字と小文字の一致 先頭音の聞き分け 9つの音素
絵本の短い文を目で読む活動 9つのサイトワード (5年) (中1)

ステップ5 語尾音の聞き分け 9つの音素 母音の聞き分け (a e i o u)
絵本についている短い文を目で読む活動 身の回りの単語を見つける活動
短い単語の写し書きを楽しむ活動 9つのサイトワード (6年) (中1)

Point!

ステップ1～5は中学校1年生でも必ず音声から復習します(20分×10モジュール程度)

中学校2年生では、ステップ6以降につなぎ、フォニックスと発音記号のつながりにも連携することが大切です(手引き「後記」参照)

音声から文字へのゆるやかな5つのステップスのアイデアを紹介します。

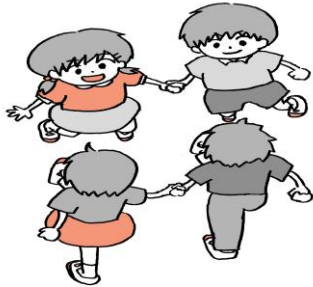
音声をたくさん聞いてきた子どもたちは、文字にたよらずとも、音声と意味をつなぐことができるという、英語の習得にとって一番大事な「たからもの」を身に付けています。そこで、「聞く」→「意味がだいたい分かる」の順番を、文字やつづりにふれる際にも大切にして、音声(80%)、文字とのつながり(20%)程度で授業を進めましょう。

活動では、子どもが英語の音に耳を澄ましたり、ペアやグループで手遊びしたり、同じ音韻のひびきの時におはじきを置いたりして、英語の音の特徴に気づかせる体験的な活動を大切にします(音韻認識)。プリント等での学習から始めるのではなく、アクティビティをとおして学ぶ例をここに記しました。先生は、できるだけシンプルなクラスルーム・イングリッシュで活動をすすめて、ポイントでは日本語をつかうと良いでしょう。外国語活動では、内容のおもしろさ、友だちと関わる活動、言葉のおもしろさや異文化への興味を引き出す活動のほうが中心です。文字指導は10分程度がのぞましいです。

ステップ1 音韻を体で感じる活動 (1・2年)

<p>聞く Phonemic Awareness</p> <p>歌やリズムを体で感じる活動</p> <p>手遊びで「韻」を感じる活動</p> <p>英語の音を体で感じる活動</p>	<p>読む</p> <p>(音声のみ 文字は扱わない)</p> <p>(3年生まで文字の提示は一切しない)</p>
--	---

◇はないちもんめ



ペアで歌を口ずさみながら同じ韻（下線）の音を聞いて「はないちもんめ」のように、向かい合って行ったり来たりステップする同じでない韻はステップせずに待つ。間違えたらジャンケン。"Rock, Scissors, Paper" "Come on, please. Hanako."

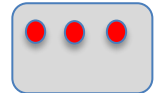
例 Fox Mox in the Box (-ox 音のみ)

Fat Cat Sat on the Mat (-at 音のみ)

歌ったり活動したりした後、いくつステップしたか思い出して先生の英語を聞いて、おはじきを机に並べる（音韻認識）

例 Fox Mox in the Box

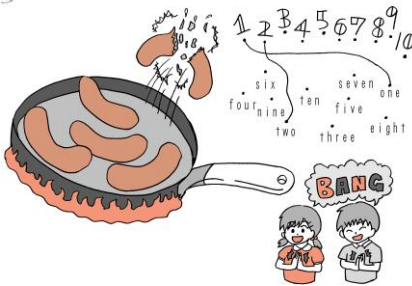
3回同じ音を感じたらおはじきは3個



◇手遊びのある歌

Ten Fat Sausages

③



歌に耳を傾けながら、ペアで、手遊び

Ten fat sausages sitting in the pan. x 2

Sizzle, sizzle, sizzle, one goes "bang".

Nine fat sausages sitting the pan. ♪

10本の指をソーセージに見立て体の前でゆらす。手を水平にしてソーセージがフライパンの中でジュージュウ。“Ban”で人差し指を立てて手を下から上にたたく。

Seven Steps

体を動かしながら歌う

最初は両手を肩に One 左手を開く Two 右手を開く

Three 左手を戻す Four 右手を戻す Five 左手を前に

Six 右手を前に Seven 両手をクロス

(Seven から Thirteen にしてもよい)

Ency Weency Spider



小さなクモが一生懸命雨どいを登っていく様子を、小さなクモになったつもりで体全体で楽しもう。

Ency weency spider went up the water spout

(両手の人差し指と親指でクモ)

Down came the rain and washed the spider out

(両手で雨が降って、クモは流される)

Out came the sun and dried up all the rain

(両手で太陽の光るようす 両手で雨上がり)

And ency weency spider went up the spout again

(最初と同じ)

◇他の歌の例

Point!

-ot -ea -ow -ee

など、歌には韻をふんでいるところがあり、手や体をつかって楽しもう。文字は見せない。

Row, Row, Row Your Boat ♪

I'm a Little Teapot ♪

Head Shoulder, Knees, and Toes ♪

This is the Way ♪

Peas Porridge Hot ♪

◇歌の「韻」に呼応する活動



歌ったり活動したりした後に、いくつステップしたか思い出し歌を口ずさんだり似ている音で手をたたいたりする。

最初のフレーズを聞いて、“-mice”の音を見つけて、おはじきを机に並べる(音韻認識)→2年生から4年生ぐらいまで続けよう。

6回同じ音を感じたらおはじきは6個

例(ターゲットは-ice)

Mrs. Price had two pet mice, very nice, two pet mice

Every day she fed them twice, two tiny bowls of rice. ♪

聞く耳ができることで4年生からのフォニックスの特徴的な音をうまく捉える素地ができる。歌の意味は推測で良い。

Point!

-ice(例)の音が耳で拾える力は、子どものほうが大人より鋭いです。大人は文字が気になるので耳だけで集中することが難しいのです。慣れてきたら、歌の同じ音が聞こえるところで、おはじきを上から下に動かせるようになります(音韻との呼応)。

◇身の回りの物と音を 結ぶ活動

Rainbow Song ♪



Red and Yellow and Pink and Green, Purple and Orange and Blue,

I can sing a rainbow, sing a rainbow, sing a rainbow song. ♪

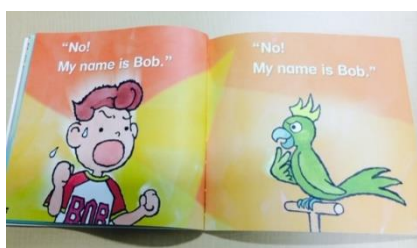
7色の折り紙を見せて色を導入する。次に教室のものに先生がタッチする (I can touch a pink chair/black pen/white chalk)。子どもの服や靴下などを指して色を言う (Ken wears a white T-shirt. Mari wears a red skirt.)。歌に合わせて、その色を来ている子どもは立ったり座ったりする。

色の足し算や、イラスト色塗りをしよう。



◇絵本を読み聞かせる 活動

Pal the Parrot



「主人公のボブはペットのオウムとはじめて会って“How do you do?”と楽しい挨拶をする。けれどオウムは真似をするのが上手すぎて・・・」

先生がまず読み聞かせをしよう。先生 (ボブ) と NET (パロット) で掛け合いを聞かせよう。次に、NET のセリフを子どもと一緒にかけよう。1・2年生は絵本に文字がついていても気に留めず、音声で先生と子どもでやり取りをしよう。

◇他の絵本の例

楽しい繰り返しを、自然と追いかけて動作化できるようなお話を選ぼう。

Point!

この年齢の子どもは、「おおまかに意味を掴む」ことが得意で、細かい表現を気に留めずに聞こうとする大切な力を持っています。これは、「曖昧であることへの寛容性」と言われ、外国語学習の基本となります。先生の英語をまるごと感じてついていったり、パペットショーにしたりしても、「模倣と繰り返し」を楽しみ、覚えてしまいます。一方、この年齢で絵本に耳を傾けないままでは、フォニックス導入後も、内容のある話の音声が入ってくるのが難しくなります。

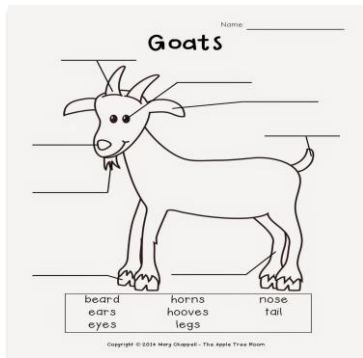
A Very Hungry Caterpillar ♪

Brown Bear Brown Bear What Do You See? ♪

Who Stole the Cookies ♪

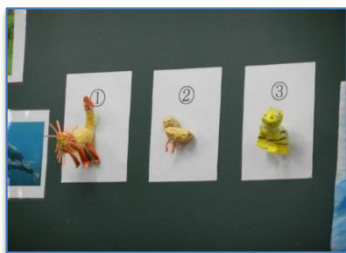
◇CLIL コーナー

「内容」と「ことばや思考」をつなぐ活動 Do You Want to Be My Friends?



Body Parts シート

tail legs ears mouth



スリーヒントクイズ

Point!

わからない単語は絵辞書で子どもに指さしさせると良い。

2年生では動物園に遠足に行くが、子どもの生活に密着した内容を用いて（生活科）、言いたいことを粘土で表そう（工作）。

例：Do You Want to Be My Friends? (エリック カール)「ねずみが馬に、ねずみがアリゲーターに、とお友達になろうとするのだが・・・」。セリフのない絵本なので、“Do You Want to Be My Friends?”で語りかけ、“What animal is this?”と聞く。

子どもは友だちになりたい動物を粘土で作り、並べ方を工夫する。先生は Make round, Twist, Pinch, Tear off などと指示をしても良い。Hand, Leg, Mouth, Head, Eyes, Teeth などの単語を紹介するとよい。出来た作品を見せながら、“Who made this? Wow, Takashi. What’s this? Is it a turtle? Is it your friend? Is it slow?”などと紹介する。黒板にキーワードの絵を提示する。「活動⇒音声⇒目で単語」で、内容の中で触れた単語は深く記憶に残る。

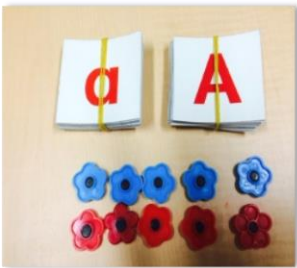
例 左の写真は小学校2年生の作品。子どもは色紙で創った動物で、スリーヒントクイズをグループで出す。先生のピアノに合わせて歌にし、先生は、“Where do animals live?”（動物の住んでいるところは?）と問いかけ動物マップに貼っていく（授業者：岡本）。

CLIL（内容言語統合型学習）を活用した例です。お話の内容と他教科の工作などと組み合わせた活動では、仕事（タスク）をしながら身近な語彙に触れることができます。その単語や表現と具体的な活動場面が直結するので、記憶に留めやすいのです。先生は、作品を英語で紹介しながらやりとりを引き出します。

ステップ2 アルファベット大文字の形・名前読み（3年）

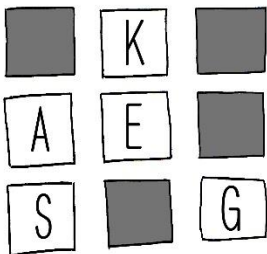
<p>聞く</p> <p>外来語 vs. 英語らしい発音</p> <p>ABC ソングを歌う</p> <p>(名前読み[ei][bi:])</p> <p>ペアで大文字の形遊び</p>	<p>読む</p> <p>(音声のみ・文字は絵カードについている程度)</p> <p>アルファベット大文字の形認識</p> <p>ローマ字 2 行日記（国語で）</p> <p>ローマ字表の徹底（へボン式）</p> <p>ローマ字を正しい書き順で 4 線に書く</p>
--	--

◇アルプス ABCD 一万尺



アルプス一万尺を日本語で歌い手遊びをする。次に ABCD の替え歌でペアで手遊びをする。黒板に A-Z のカードを貼り、2 枚抜く。抜いたカードの「名前読み」を発音しながら、抜いたカードの拍は手をたたかずに ABCD 一万尺が出来たペアは OK! 3 枚、6 枚と抜いてレベルアップする。A-Z の形の認識は大人が思うよりもつまずきやすい。苦手な文字（B-D/V-W/P-D）は取り出して見せる。

◇ABCD カルタビンゴ



先生は、黒板に ABCDEFG のカードを一枚ずつ順に並べる。子どもは 4 人グループで ABC カルタを並べる。（『Hi, Friends!』などの ABC カルタをグループごとにセットしておく）

1. ABC ソングを歌いながら、A-Z まで共同で並べる。
2. 26 のカードから 9 枚選び、3×3 に並べる。
3. 先生は、子どもを指名して“What’s your name?” と聞く。“I’m Mei.” と答えたら、“Mei, M,M, beginning with M” と言いながら、ビンゴゲームで裏返す。



子どものイニシャルと A-Z を結びつける。残った Q や P などは、なりきりキャラクターで質問する。“What’s your name?” “I’m Pikachu.” 26 のカードから 9 枚選ぶときに、「今日はスポーツについて質問する。」と伝えると、「サッカーは S かな?」「卓球は P かな?」と作戦を考えられる。

◇イニシャルコンテスト (大文字)



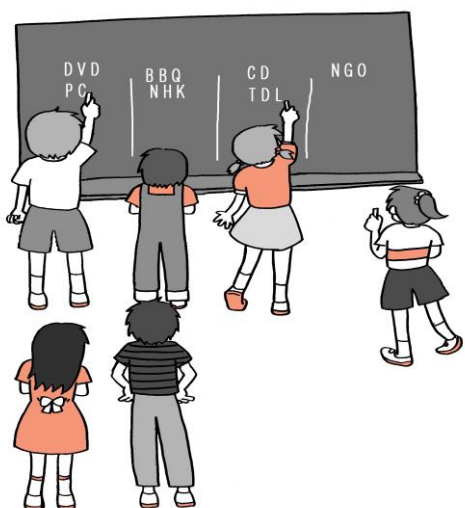
自分のイニシャルを、デザインする。26文字なので、1文字につき1～2名が作る。Daisukeの場合はDである。出来たデザインはA-Zまで教室に掲示しよう。

出来上がったイニシャルDを、家に持ち帰り、家の人に、英語でDで始まる物をインタビューしてイラストに書いてくる。文字は書かなくて良いか、希望があれば絵辞書を活用する。

Daisuke(大介)→ D, D Dog D, D, Dinosaur



◇大文字班対抗リレー

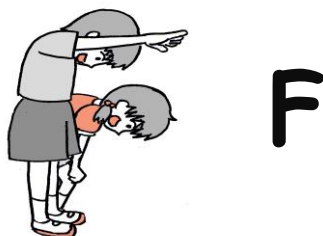


ローマ字が習熟する4年生でも適している活動である。

イニシャルデザインが教室に掲示できると、大文字に親しみがでているので、「大文字対抗リレーをしよう(名前読みでよい)」をおこなう。

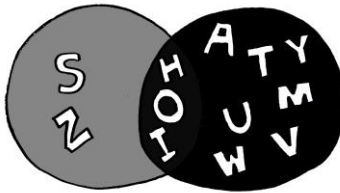
1. グループに2分与え、メモ用紙に知っているだけの意味のある組み合わせを書き出す(CD DVD NHK WHO USJ等)
2. メモを伏せて、4チーム×10人で、チョークをバトンにして黒板に書く。音楽スタートでチョークをバトンにして回す。いくつ書けたか?ユニークな単語は?よく思いついたなど思う単語は?“What's PC?” “Personal Computer” とフィードバックをする。子どもは、身の回りにも、社会や理科の教科書などにも知っている単語があふれていることに気づい

◇ペアで大文字遊び

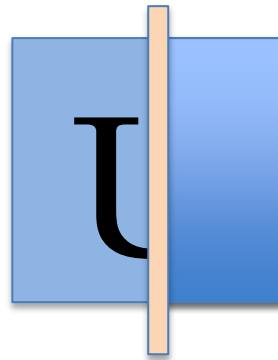


黒板のA-Zのカードを見ながら、ペアやグループで文字を形作る。ABCソングに合わせて発表し合う。

◇鏡文字クイズ



アルファベットの大文字には、紙に描くと、真ん中で折ると重なるものや、ぐるっと回転すると似ているものがある。どれかな。理科室などにある鏡に写すと、右と左が同じものを探してみよう。折り紙を中央線で折り、文字を創ろう（例： U W T）活動をとおして、大文字の形認識を視覚で記号化する。線対称と点対称と対象でないものがあるが、高学年では算数で学ぶので、その際に復習しても良い。



ワークシートの真ん中（中央線）に鏡をおいて写すとどんな文字ができるかな？

◇アルファベット順に書く



これまでの、活動を通して、初めて A~Z を正しく書く練習をする。パソコンやタブレットパソコンで、友だちの名前（ローマ字）やこれまで学んだ短い単語をタイプする練習を楽しむ。

留意点

1. 書き順を学ぶ
2. 4線に正しく書く
3. 遊び感覚で、指でなぞるゲーム等と併用する

例 ペアで背中や手のひらに大文字を書いて当ててもらおう。イラストに隠れている大文字を探す。自分もイラストを考えて問題をだす。

大文字書き順ワークシート例

◇CLIL コーナー

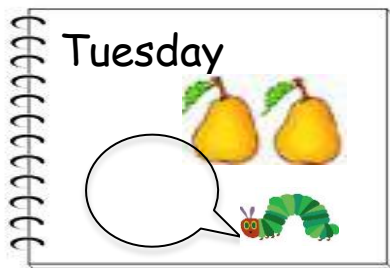
The Very Hungry
Caterpillar



ワークシート①



ワークシート②



わたしの青虫日記③



先生がパペットで、青虫日記紹介

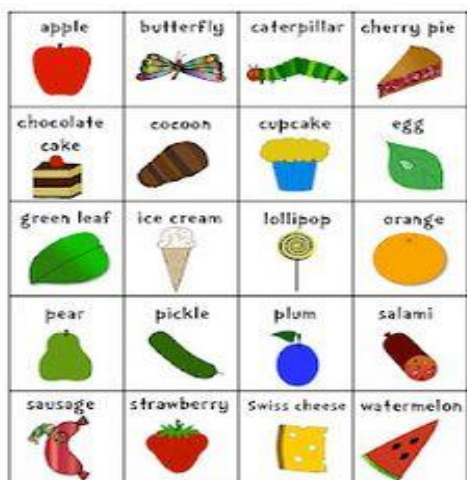
3年生では、虫かごにえさを探して入れたり、青虫からさなぎ、蝶への孵化を心待ちに昆虫の世話をしたりすることが多い。子どもたちの生活に密着した内容に関連したお話を用いて絵本に親しもう。その際、子どもはまだ文字の綴りは学んでいないが、絵本に出てくる単語は音声と意味を結ぶことができる。

例：The Very Hungry Caterpillar (エリック カール) は、小さな青虫が 1 週間に毎日果物を食べながら蝶へと成長するお話である。

1. The Days of The Week を歌って 1 週間の曜日の単語に慣れる。
2. 青虫について知っていることを聞く (日本語)。
3. 絵本を読み聞かせる。
4. どんな昆虫や食べ物がでてきたか、思い出させながら発音する (シラブルを意識させる)。
5. グループに 1 枚、食べ物等のワークシートを配り、色を思いださせ (What color is this?) 何個食べたかな (How many blueberries did the caterpillar eat?) と聞いて絵カードを見せしていく。
6. グループで、ワークシートに色を塗り切り抜く (①)、お話を思いだしながら「青虫の日記」を創る。読み聞かせを聞いてその順に並べられたらノートにノリで貼る (On Wednesday he ate through three plums.) (②)、日本語で青虫のつぶやきを書き込む (③)。先生は、次の時間、子どもをつぶやきを入れて読み聞かせができるの良い (例、It's very sweet)。Cocoon のつぶやきは興味ぶかい。
8. 青虫の日記が出来たら、最初の大文字を見て、Chica Chica Boom Boom ボードの A~Z を埋めていく。
(絵本や内容から出会った単語を学級に掲示していく)



◇音のかたまりを感じよう Syllable



The Very Hungry Caterpillar では、楽しい果物や食べ物の単語が出てくる。これを使って1音節・2音節・3音節の単語を聞かせて、音節のかたまりと、アクセントに気づかせる。

活動例（以下の表を参照）

1. 絵だけを見せて、手で拍をとる。文字は見せない。
2. カスタネットで拍をとる。

小太鼓のスティックで黒板をタップして拍をとる。

ピン球を使って、シラブルの数だけバウンドさせる。

（強拍では強く）

3. 指を折って数える。

4. シラブルを視覚化して丸い拍で表す。 ●● （トン・トン）

音節数	活動に使う単語	拍のイメージ
1音節 (1拍)	pear plum cake cheese	●
2音節 (2拍)	or·ange pop·corn lolli·pop	●●
3音節 (3拍)	straw·ber·ry cu·cum·ber	●●●

その他の子どもに分かりやすい単語（生き物）

1音節 (1拍)	dog cat fish hen fox goat	●
2音節 (2拍)	rab·bit ze·bra ti·ger mon·key gi·raffe	●● / ●●
3音節 (3拍)	oc·to·pus an·te·lope el·e·phant	●●●
4音節 (4拍)	al·li·ga·tor	●●●●

Point!

3年生では国語でローマ字を学び、4年生では大文字、5年生では小文字に触れますが、「文字」が入ってくる前に、音声だけで音のかたまりを感じる力を身につけることで（音韻認識）、その後に、音韻と綴りのつながりを学んだ時に、英語が音素からなりたっている（音素認識）がイメージしやすくなります。

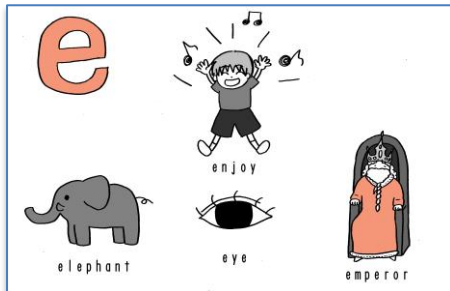
ステップ3 アルファベット小文字の形・仕事読み（4年）

絵本の音声を真似る活動

<p>聞く</p> <p>1 グループ大文字リレー（3年復習）</p> <p>2 アルファベット小文字 a~z</p> <p>2 おはじき音韻と拍クイズ</p> <p>3 音声のみ 先頭文字のクイズ</p> <p>Odd-One-Out</p> <p>同じ音を聞いてみつける</p> <p>(b□□--bag box cat)</p>	<p>読む</p> <p>グループ大文字リレー (CD WHO UK)</p> <p>PCで単語入力</p> <p>Dear ----- I am -----.</p> <p>I like -----. (選び写して書く)</p> <p>身の回りの単語をトレーシングペーパーとデジタルカメラで集めよう (chocolate snack time)</p>
--	---

◇アルファベット大文字復習

自分の名前をアルファベットで



Emi (恵美) の E-e で始まる名刺

イニシャルを使って名刺を作ろう

"My initial is **E**. My favorite animal is **e**lephant."

1. アルファベットソングを歌う。名前読みの発音を確認する。
2. アルプス一万尺を ABCD の替え歌で歌い手遊びをする
次に小文字 26 字を黒板に貼り abcd の替え歌で手遊びをする。
3. 文字は書かなくても良い。自分のイニシャルで始まる単語を身の回りや絵辞書から探して書き写し、イラストをつける。
大文字が混じることもある。

◇アルファベット小文字 チャンツで仕事読み



a~z の形の認識は大人が思うよりもつまずきやすい。苦手な文字 (b-d q-p v-w 等) は取り出して見せる。

26 の絵カード (フォニックス・ジングル参照)

1. 絵と動物などの組み合わせで覚える
b,b,bee/c,c,cat/
2. のどに手を当て、有声音と無声音を意識させる
例：b-有声音 p-無声音
3. 日本語にない音 (a,a,apple/f,f,fish/ r,r,rabbit) などは、音の出し方や発音のコツを言う

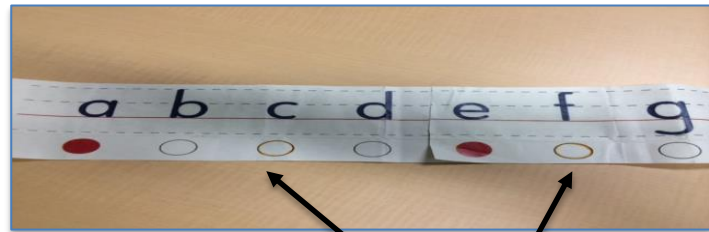
◇アルファベットの帯

4線に小文字を書く

有声音と無声音の音の出し方に気づかせる。

無声音→喉が震えない (c,f,h,k,p,q,s,t,x)

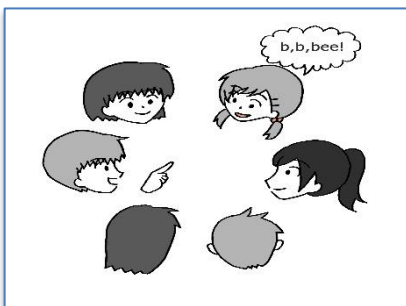
4線の「1階」「2階」「地下」のどこに書くかを意識させる。例えばgは、「1階と地下」である。fは「1階と2階」である。



●は母音

●は無声音

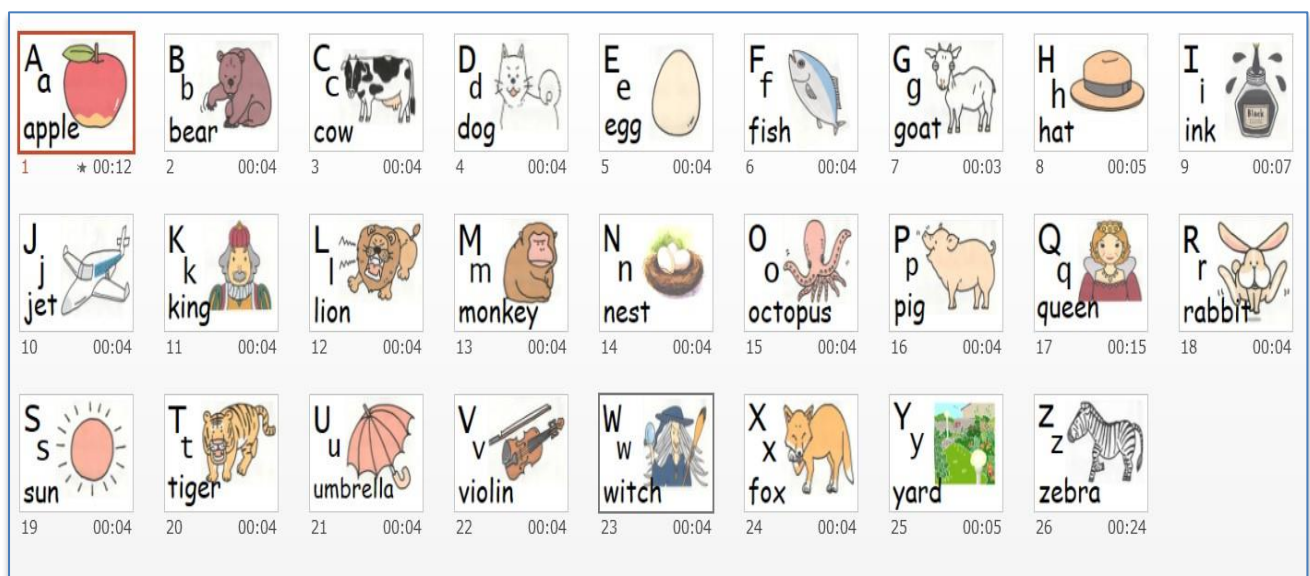
◇アルファベット小文字 ジングルを友だちと覚 える



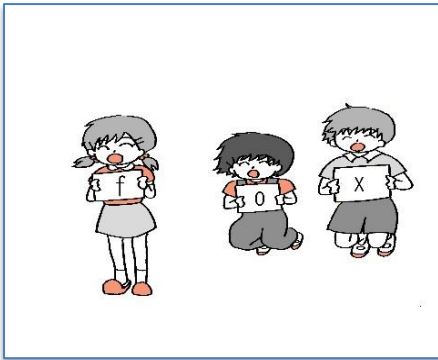
Wow! ゲーム

グループでチャンツのステップを工夫して遊びながらリズムよく覚える。6人程度で輪になり、a,a,apple といった後、一人を指さす。指さされたひとは、次の b,b,bee を言うと、すかさず両側の人々が“Wow”と褒める。続けていき、zまでできたら座る。8ビートのチャンツを流しておく。26文字なので、グループで活動しながらだと3～4回で覚えてしまうことができる

フォニックスジングル



◇単語メイキングゲーム



Point!

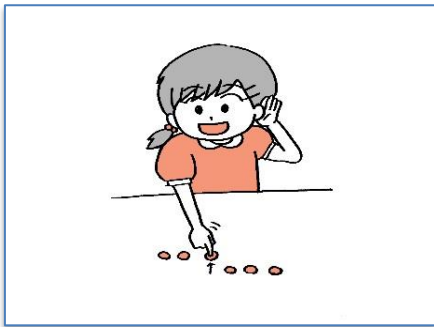
a~z の形の認識と、「仕事読み」の音が分かってきた段階

1. 先生はアルファベット小文字 26 のカードを 2～3 セット、子どもに 1～2 枚ずついきわたるように配る。
2. 先生が絵カードを見せて単語を発音し、子どもは推測しながら自分の手元にカードがあれば、すばやく手を挙げ、黒板の前にカードを持っていき、並んで単語を創る。
3. 先生が「きつね」の絵をみせ、fox というつづりを見せて、子どもは互いに当てはまるアルファベット文字をさがして認識していく。最初は f/o/x と音を繋ぐ。次に f/ox--b/ox (オンセット・ライム) につなぐ。

先頭音と語尾の組み合わせ (オンセット・ライム) の音のかたまり -ox -at を意識することは、発音にも読みに大切である。

◇音韻認識復習

「出だし」「終わり」を聞き分ける活動



2 年生の Mrs. Price's Mice 等の継続をする。

「出だし」「終わり」に耳を澄ますことができればよい。まだ、この段階では、無理に文字と結び付けない。歌ったり活動したりした後に、似ている音で手をたたいたり、おはじきを上から下におろして意識づけをする。

“-mice” の他に“-ap” “-ake” 等の歌もある。

語尾の音を耳で拾い、おはじきを机に並べる (音韻認識)

でだし→先頭音の音韻認識 (アリタレーション)

終わり→語尾の音韻認識 (ライミング)

◇トレーシングペーパーで身の回りの単語を集めよう

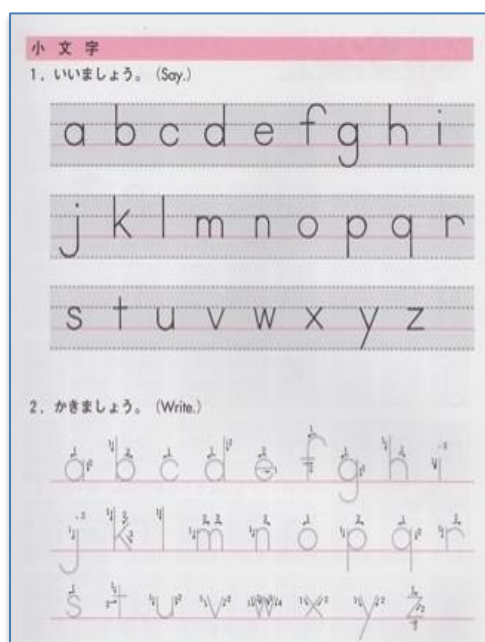


トレーシングペーパーを一人一枚準備する。まず、学校や教室、文房具にある、英語を写し取る。次に家でも英語を写し取る。お菓子の箱を持ち寄っても良い。集まった単語のなかから、子どもに馴染みのある単語を、OHC で写しだし、先頭の音を確認しながら、みんなで読んでみようとする気持ちを育てる。

例 tape tea coffee / Digital Vision Desk

(フォニックスアルファベットどおりの単語ばかりではないので、音から馴染んでいるもので良い。先頭音がわかると、何が書いてあるか推測できるなど感じる経験をする)。

◇アルファベット順に書く



小文字書き順ワークシート例

これまでの、活動を通して、初めて **a~z** を正しく書く練習をする。パソコンやタブレットパソコンで、友だちの名前(ローマ字)やこれまで学んだ短い単語をタイプする練習を楽しむ。

留意点

1. 書き順を学ぶ
2. 4線に正しく書く
3. 遊び感覚で、指でなぞるゲーム等と併用する
4. 大文字と小文字をきちんと一致させるのは5年生でよい。
5. 大文字と形が違うものに注目させる。

D-d F-f H-h L-l Q-q R-r

(この5ペアは一致しにくいので取り出し指導)

例 ペアで背中や手のひらに大文字を書いて当ててもらおう。イラストに隠れている大文字を探す。自分もイラストを考えて問題をだす。



季節の英語絵辞書を使うと良い。

様々なカレンダーを持ち寄って、月ごとのクイズを作り、季節の好きなものや、家族を紹介しよう。また「2分の1成人式」で、これまでの思い出を紹介しよう。初めて出だしを大文字に。

1. 誕生月の好きなものをカードに絵で描きカレンダーを創る。
2. 月ごとの季節の好きなものを紹介してクイズをする。

得意なことや家族を紹介しても良い。

My birthday month is □□□□.

I am ten years old.

I have a sister. She is 12 years old.

I like snails. I like frogs.

What month? (J u n e)



◇CLIL コーナー

Map Symbols

社会の地図帳を使って



外国の Map Symbols

『ばらばらだまし絵』

(提供：寝屋川市)



4年生では、社会では地図帳を使い、地図記号を習う。子どもの日ごろの教科学習を生かして、簡単な英語を用い、英語活動を創ろう。その際、子どもはまだ文字の綴りは初歩であるが、単語をみて写すことへの抵抗は減ってきているため、リストから選んで「写し書き」することで、活動がひろがる。

1. 先生の町案内のティーチャー・トークを聞いて、その順番に校区マップや自分の町の地図に地図記号を貼る。

例 post office shrine police station

2. 校区や町のオリジナル地図記号をグループで考える。

例 convenience store コンビニ braille points 点字
stationary shop 文房具屋 bike parking 駐輪場

3. 創った地図記号を使って、グループで簡単な町案内をする。

「写し書き」をして、オリジナルマップを完成する。

例 First, go to the stationary store. Turn left.

Second, go to the post office. Third, buy a stamp.

(You can post the letter.)

4. 外国の地図記号の紹介を聞き、外国と日本の地図や写真を見比べ、町の形状の違いに気づく。

地図を使って、寝屋川市のことや、自分のことを話してみよう。先生のティーチャー・トークでは、『ばらばらだまし絵』を使って、デモンストレーションをしよう。手がかりになる絵を持って話をすると、話がしやすく、以下の(括弧)部分を入れ替えて、ショー&テルにチャレンジできる。

“I live in (Neyagawa). My birthday is (July 7th).

I like (watermelons). I can see (stars) and (morning glories.)”

ステップ4 アルファベットの大文字と小文字の一致

先頭音・語尾の聞き分け 9つの音素

絵本の短い文を目で追い声に出す活動 (5年)

聞く	読む
1 小文字 a~z 聞いて発音 (4年復習) (a,a、apple、b,b、bear--、z,z,,zebra)	1 はじめての3文字単語 (d/o/g) ジョーズに食べられちゃうぞ
2 音声のみ 先頭音・語尾のクイズ (□at: cat hat mat) (f□□ five fox fan)	2 音韻のかたまりを聞いて発音する。 (c + at f+ox c+ake)
3 Odd-One-Out 三つのうち一つだけ違う先頭音や語尾 をみつける (b□□--bag box cat)	3 絵本でクローズドタスク ルールハント デコーディング
	4 サイトワード9個 (I You She/He am are is a an the)
	5 大文字と小文字の一致 A-a B-b C-c

◇フォニックスアルファベット

名前読みと仕事読みの音を
復習する (4年生復習)

6回同じ音を感じたらおはじきは6個

例 (ターゲットは-ice)

If you want to bake a cake

It's not really hard to make

Take some sugar, eggs and flour

Mix together, cook an hour

If you want to bake a cake

Make it sweet for goodness sake!

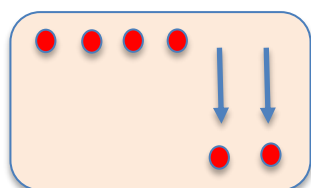


◇音韻認識 (2年生の復習)

歌の「韻」を感じる活動

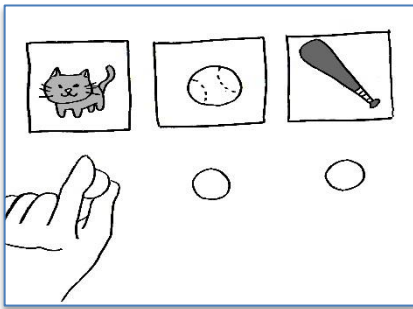
『Word Family Sing Along』

スカラシック出版



この歌で、-ake という音が耳で拾える力は、この年齢の子どものほうが大人より鋭い。大人は文字が気になるが、文字は一切見せない。

◇先頭音の聞き分け（音のみ）



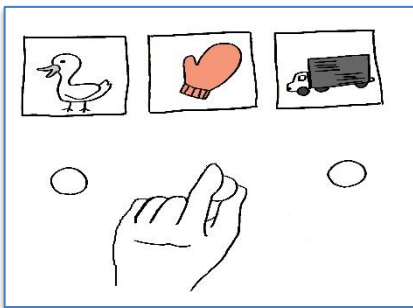
聞き分けてから綴りを見せる

左の三つの単語を音声で聞かせる。Odd-One-Out ゲーム一つだけ違う音で始まることを言う。例 (cat / ball / bat) **ball** と **bat** は先頭音と同じだが、一つだけ **cat** が **c** で始まるので違う。

子どもが答えを表すには、おはじきを三つ並べ、左の音が違うときは左のおはじきを取る。または、音が違うものだけ、手をたたく。

まず、音だけで練習し、答え合わせをしてから、文字のついたカードを見せてもよいが（順番を逆にすると、耳で聞き分けられない）。見せる程度で、つづりを教えこまない。

◇語尾の聞き分け（音のみ）



聞き分けてから綴りを見せる

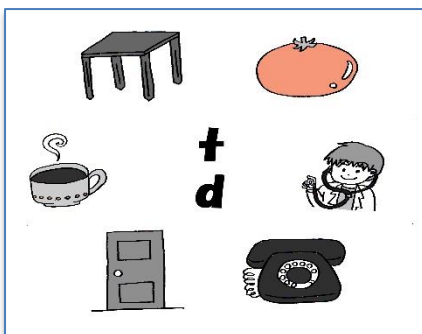
左の三つの単語を音声で聞かせる。Odd-One-Out ゲーム一つだけ違う音で終わることを言う。例 (duck / mitten / truck)

duck と **truck** は語尾と同じだが、一つだけ **mitten** が違う。子どもが答えを言うときは、おはじきを三つ並べ、真ん中の音が違うときは真ん中のおはじきを取る。

または、音が違うものだけ、手をたたく。

まず、音だけで練習し、答え合わせをしてから、文字のついたカードを見せる（順番を逆にすると、耳で聞き分けられない）。見せる程度で、つづりを教え込まない。

◇先頭音の聞き分けと小文字の提示



聞き分けてからつづりを見せる

（例）p で始まる単語の例

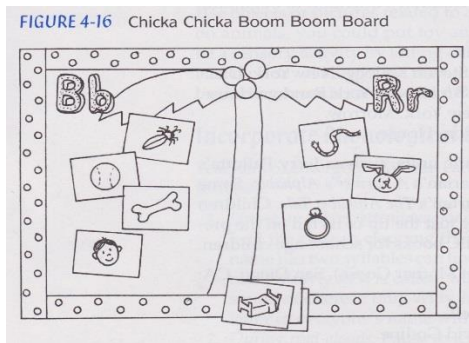
左の6個の単語を発音し、ターゲットは **t, t, tea** か **d, d, door** であることを言う。耳で聞き分け、同時にアルファベット (**t** か **d**) の字の形を見せる。先頭の音だけが分かれば良い。

全てのアルファベットの先頭音をする必要はない。

先頭に来やすい文字を6個程度する。有声音と無声音は喉に手を当てて感じさせる。

(b/p d/t c/g f/v s/z いとこの音 有声音と無声音)
(f/h u/a l/r 発音が違う音)

◇チカチカブンブンボード



聞き分けた音を壁面に飾ろう

授業で、聞き分けの練習をした語彙は、後になると子どもは、忘れてしまう。左のようなぶんぶんボードを掲示にしておき、左右に比べられるように掲示しておくが良い。

(b/p d/t c/g f/v s/z いとこの音 有声音と無声音)

(f/h u/a l/r 発音が違う音)

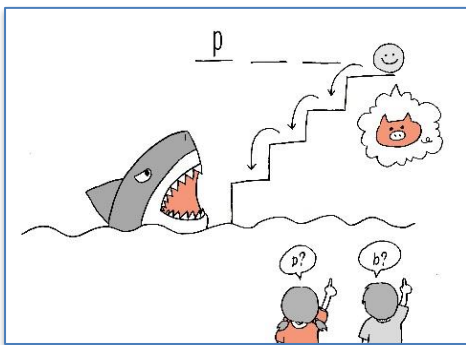
参照 Chicka Chicka Boom Boom (Alphabet Song)

<https://www.youtube.com/watch?v=bhKmoI97X34>

◇単語メイキングゲーム

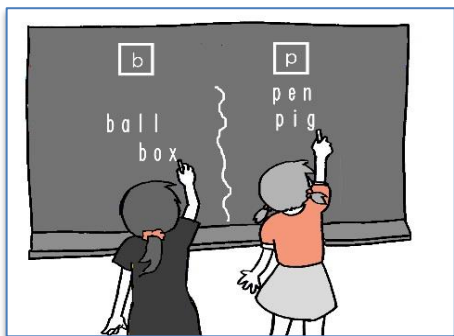
はじめての3文字単語 (d/o/g)

ジョーズに食べられちゃうぞ



先生は、頭の中に、一つの3文字単語を思い浮かべる（例 dog fox bag cap など）。フォニックスの仕事読みどおりの読み方をする単語のメモを引き出しに伏せておく。子どもは、手を上げて好きなアルファベットを一つずつ当てていく。c, e, x, f ……。先生の思い浮かべた3文字単語にそのアルファベットがなかったら、階段の上のマグネットは階段を下りていく。「ジョーズに食べられちゃうぞ！ゲーム」。先生は仕事読みを思い出させるように、c, c, c, cow とゲームをしながら聞かせる。仕事読みではない読みは、ここでは扱わない。

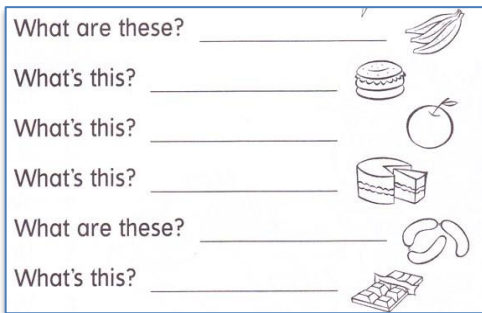
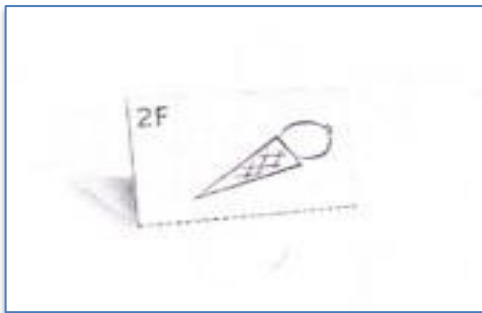
◇先頭文字ゲーム



今までのゲームで、読めるようになった desk bag などの単語を教室に貼り、トレーシングペーパーで集めた単語に親しみが出てきたら、グループに絵辞書を1冊ずつわたす。

「よういドン」で、3分間、今日の文字(例 b と p)で始まる単語を協力してメモをする。短いほど良い。その後は、絵辞書は伏せチョークリレーをする。制限時間で記憶している単語を順に黒板にできるだけたくさん書きにくる。友だちどうし助け合う。(例『えいご絵辞典』旺文社 『WORD BOOK 音と絵で覚えるこども英語絵じてん』三省堂 中学校1年生のイラスト入りの和英辞書でも遊べる)

◇Right or Wrong ゲーム



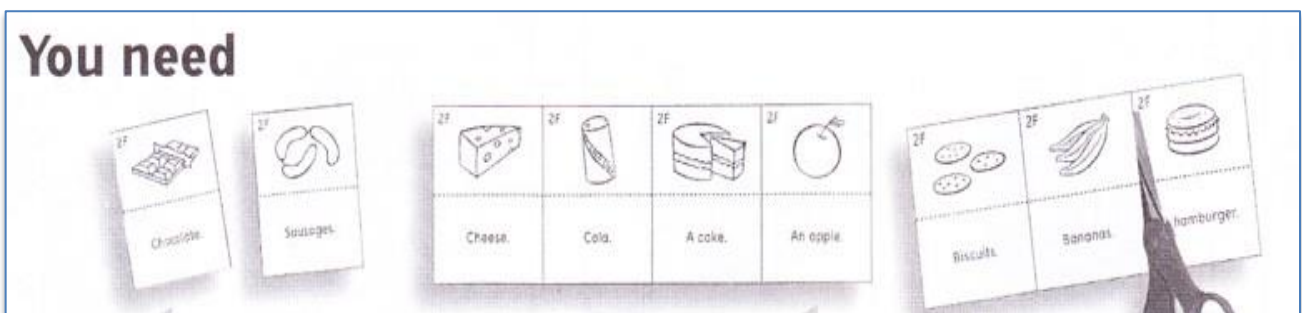
下のようなカードをプリントに作成する。絵辞書をつかって、子どもが描いて、単語を写しがきしてもよい。上が絵で、下が単語とし、点線で折り曲げる。それぞれのカードには1～10の番号がついている。10のカードを教室の様々な場所におくが、文字は折り曲げるので裏になって見えない。ペアBは “What's this?” と聞く。ペアAは絵をみて声に出してよむ。裏を見てよいので、英語が合っていたら “Right” と言う。惜しくも間違えたら “Wrong. Nice Try.”。10個のカードのうちいくつ読めたかセルフチェックする。次にペアは交替する。文字は見えるが絵が見えないようにすることもできる。

進め方 Put the cards like this.

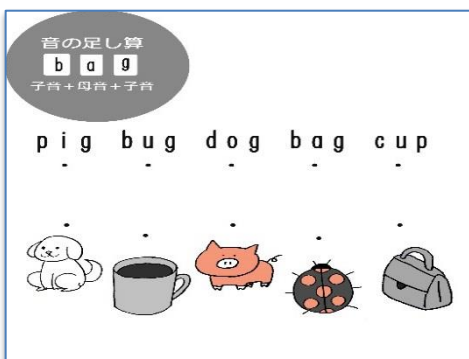
Read these questions. What's this?

Write the answers.

Is it right?/wrong.



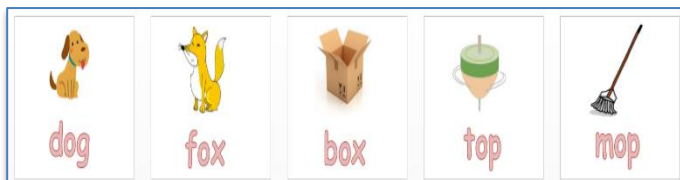
◇絵繋ぎゲーム



3文字単語が読めるようになってきたら、左図のような線つなぎクイズをする。先生が、5問英語で発音して、子どもが線つなぎをする。子どもの理解の様子を把握して指導に役立てる。次に、下図のような、3文字の単語が読めるようになり、4年生のステップ3で紹介した「単語メイキングゲーム」は継続し、先頭音と語尾の組み合わせ（オンセット・ライム）の音のかたまりがわかってきたら、絵本をもちいて『クローズドタスク』を行い、自分の力でデコーディングする体験をする。

◇クローズドタスク

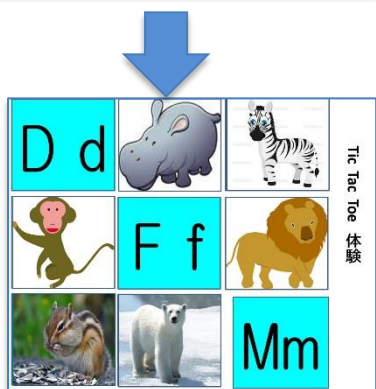
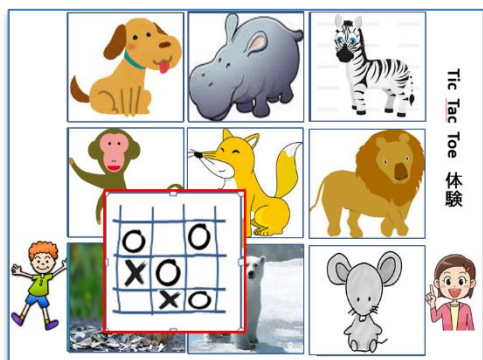
絵本『I CAN』が読めた！？



左図の絵本『I CAN』は、3文字単語で、ある程度読めるようになっている（オックスフォード・リーディングツリーI CAN READ シリーズ）

1. 先生がジェスチャーを交えて絵本を読み聞かせる。
2. ペアで絵本のコピーをもらい、「ここは読めそうだ」というところを探して丸で囲む。読めるところは二人で声に出す。
m+op t+op -op -ox の音のかたまりを意識させる。
3. 先生といっしょに皆で確かめながらゆっくり読む。

◇Tic Tac Toe ゲーム



Tic Tac Toe ゲームは、ペアでもクラス全体でもできる。楽しみながらいつのまにか、先頭音や語尾、音素を覚える楽しいゲームである。

1. 9つの先頭音を絵カードで導入する（ステップ4では大文字と小文字両方がよい）カードの裏には先頭の文字が書いてある。
2. クラスは2チームに分かれ、AチームとBチームで、カラーソフトボールを一つずつ用意する。両チームから、1名ずつ希望した子どもにボールをわたす。ボールがいずれかの絵カードに当たると、そのチームはカードを裏返して単語を言うことができ、先頭音を当てる。シマウマにボールが当たったら、そのチームが先頭の音読み z とその単語 zebra を発音する。クロス表に集計に陣取りをした記録をする。たくさん陣をとったほうが勝ち。
3. オセロゲームのようにコーナーをとったり、ビンゴ形式にしたりしても良い。

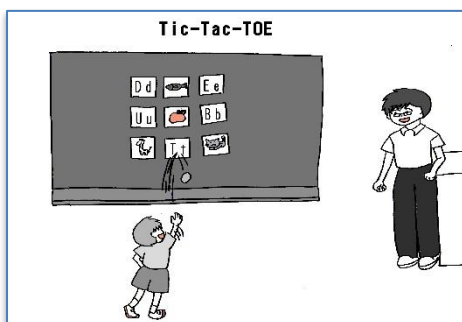
◇ 9つのサイトワード

I You She/He

am are is a an)

I	am	is
You	are	a
He	She	an

文法の説明は詳しくなくてよい。



Tic Tac Toe で9の単語にトライ

絵本を読もうとする機会が増えると、フォニックスを学んでも規則とおりではない読みの単語がよく出てくる。IやYouはよく見る単語なので、9つ程度のカードで見てみて丸ごと認識する方法が「サイトワード」である。ゲーム感覚で読もう。

Tic Tac Toe ゲーム（前述に同じ）ビンゴゲームでも良い。

1. 9つのサイトワードをカードに書く。
2. 先生は、例をだしながら、カードを見せていく。

例 I am Takashi/I/I/I. （自分をさして）

She is Yumi/She/ She/ She. （女の子を紹介）

It's a melon/ a/a/a. （メロンをさして）

But it's an apple/ an/ an / an. （りんごをさして）

I can play the piano / the /the/ the. （ジェスチャー）

I can play soccer / ---/---/--- （ジェスチャー）

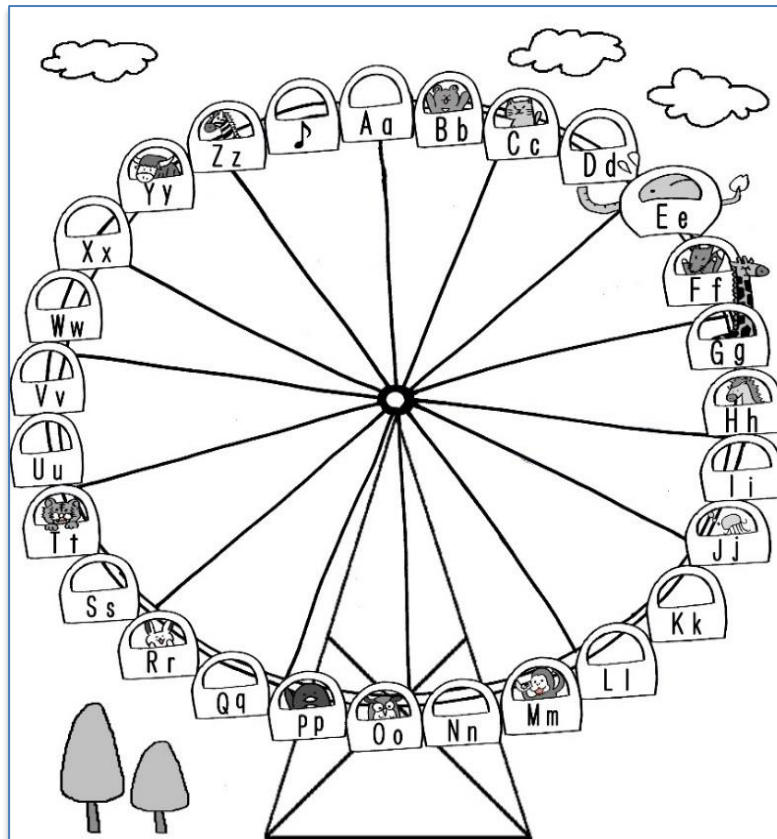
3. 9つのカードを3×3に並べて、Tic Tac Toeで裏返していく。裏返したものを表に戻しても子どもはよく覚えている。「You are Mari. の are だね。」とポイント指導する。

◇ アルファベット

大文字と小文字の一致

ステップ4では、今まで学んだ大文字と小文字の形を認識し、A-a B-b のペアリングをする。

1. A-a~Z-zをサインペンでなぞろう。もし、上手く書けない文字があったら、観覧車の内側に、2回書いて練習しよう。
2. 全部書けた人は、観覧車の内側に、そのアルファベットで始まる単語を絵で書こう。
3. 絵辞書をつかって単語さがしをして、写し書きをしても良い。例 (Z-z zebra)



Point!

大文字と小文字の一致は、このように、中学年で急いで指導せずとも、5年生になってからのほうが形の認識、写し書きも正確である。発達段階に合わせて、中学年ではその段階に得意な「耳を澄ます」活動にしっかり時間をかけるようにする。

また、国語ではローマ字を学んでいるが、その後2～3行のローマ字日記を書かせる機会は、意外にない。ローマ字があやふやなままだと、英語もあやふやになる。5年生の最初に、日本語としての50音縦横表のしくみを理解し、SとAなら「SA」(さ)が分かり、ローマ字ですらすら書けるまでにしておくと、その後、日本語とフォニックスの違いに気づかせていく。ローマ字のA~WA(あ~わ)の抵抗が少ないほどその力を英語にも上手く転移できる。ヘボン式ローマ字のポイント指導(例:TI→CHI)を行い、パソコンでブラインドタッチにトライすることもアルファベットへの抵抗を減らす。

◇CLIL コーナー Sense of Taste & UMAMI 「味覚と旨味」



4つの味覚と UMAMI を考える
子どもたち (大阪教育大学)



給食献立表



スーパーのちらし

Point!

CLIL の 4 C

グループ活動 (Communication)
で分類を考えさせる (Cognition)。
カテゴリー化等の思考スキルを育
てることは CLIL の大切ポイントで
ある。家庭科の背景知識を活性化
し、独創的な分類方法を引き出す。
日本と和食が無形文化遺産になる
ほど人気があることや、世界が食文
化でも繋がっていることに気づか
せる (Community&Culture)

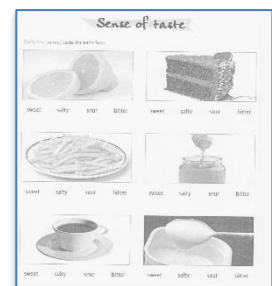
5年生では、家庭科を初めて習うが、調理で使う食材や栄養素には、給食のメニュー表での背景知識がある、そこで、子どもの身の回りに溢れている食材と、「味覚」と「栄養」から考えて CLIL 授業を工夫しよう (授業者：伊藤・谷野・橋本)。

1. 給食の献立表の絵を拡大コピーし、食材を切り抜く。家から食材の絵やスーパーのコピーを持ってきても良い。
子どもが小文字のスペルに慣れていたら英語でも書く。
2. 先生はそれらの単語を 20 程度選んで、紹介する。
単語に慣れし楽しむために Food Chants♪などで口ずさむ。
3. グループで切り抜いた単語を、どんな方法でも良いので分類する。(例 健康に良い・悪い 味 自然→加工)
4. 子どもの分類方法を聞く (日本語でも OK)
5. 先生は、子どもの分類方法から 2 種類ぐらい教材開発をする。

例 1 Sense of Taste (味覚)

表現 What's this? It's a lemon.
How does it taste?
It tastes sour.

語彙 sweet, salty, bitter, sour, (four senses)



1. 切り抜いた食材を、分類して貼る。紙皿に対角線に線を引いて糊ではると後でも紹介しやすく、教室掲示に出来る。
2. 4つの味覚のどれにも入らないものがあるかどうか聞く。
(Tomatoes don't taste sour, but)
Tomato ・ Cheese ・ Mush room
3. どれにも分類できない5つめの味覚を UMAMI (旨味) と言
い、日本の和食から世界に広まったことを告げる。
4. 家庭科で、UMAMI (旨味) を英語で調理して味見をする。
(Put dried the seaweed into the water. Wait 30 min.
Boil the water in 10 min. Take out the seaweed. Then,
put the bonito into boiled water. Take out the bonito when
it starts dancing.)
(昆布だし カツオだし 野菜スープ 和食など)

Food Pyramids 「フードピラミッド」



家庭科で学ぶ食品分類表を使っても良い（単語を英語にする）。



Point!

提供：シルバナ



栄養素に分類

例1 Food Pyramid ヘルシーメニューを考えよう

表現 What's this?

It's an orange.

Which group is it in?

It's in the fruit Group.

It gives vitamins

語彙 vitamin carbohydrate calcium fat mineral

1. 切り抜いた食材を、グループ分けして、Food Pyramid のワークシートの上におき、栄養素の語彙を学ぶ。
2. 先生が昨日食べ過ぎた、「アンヘルシーなメニュー」のストーリーを聞く。先生の食べた食品を、Food Pyramid に並べ、先生のメニューのバランスはどうか、考える。
3. グループで、ヘルシーメニューを考える。
担任の先生だけでなく、スポーツ選手である先生のメニュー
和食好きの校長先生のメニューなど、グループごとにテーマを決めても良い。
4. 和食レストラン、ベジタリアンレストラン、満腹食堂など
レストランを開く予定で、紙皿に栄養を考えた食材を貼り、
即席レストランを開いても良い。

What would you like?

I'd like something sweet.

How about ~?

Great. I'd like ~?



メニューを考える



レストランを開こう

ステップ5 母音・語尾音の聞き分け・音素

絵本の短い文を目で読む活動

簡単なフォニックス（サイレント e）

身近な単語の写し書き（6年）

<p>聞く</p> <p>子音の英語らしい音</p> <p>5つの母音と CVC 子音+母音+子音</p> <p>音素のかたまり</p> <p>（次の9個 ee oa ake ch ox 等）</p> <p>サイトワード（9個 When Where Who What How Which the can do）</p> <p>簡単なフォニックス</p> <p>（サイレント e 礼儀正しい母音）</p>	<p>読む 書く</p> <p>Oxford Reading Tree リーディングツリー等</p> <ol style="list-style-type: none">1 読み聞かせ2 ルールハント I Can Read シリーズ3 たどり読み ペア読み4 手づくりの絵本を作ろう （単語は選び、貼る、ゆっくり写して書く）5 ボードゲーム作り
---	--

◇フォニックスアルファベット

名前読みと仕事読みの音を復習する

（4、5年生復習）

大文字と小文字の一致を復習する

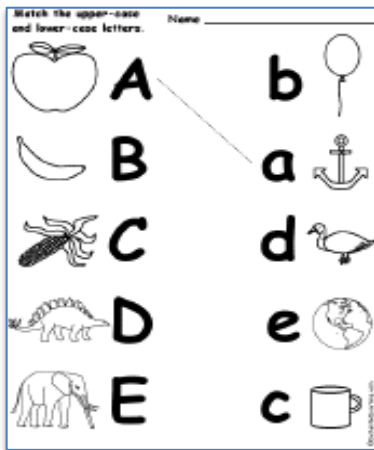
4年生のアルファベットチャンツの復習

5年生の大文字と小文字のマッチングの復習

大文字をみて小文字が当てはめられるか、大文字と小文字を結ぶことが出来るか、先生が単語を音で紹介しながら進める。ワークシートに書く。大文字と小文字がセットになったカードを使い始めると良い。

Aa

Bb

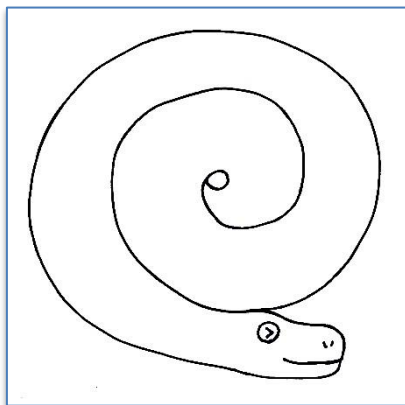


Photocopiable Worksheet 参照

<http://www.enchantedlearning.com/alphabet/circlewordsthatstartwith/>

◇子音の「へびカード」

子音を英語らしい音で発音しよう



へびカード

子音をカッコよく発音するととても英語らしく聞こえることを伝え、「へびのワークシート」を配る。

先生の発音した子音の順番に、蛇の内側から書く。

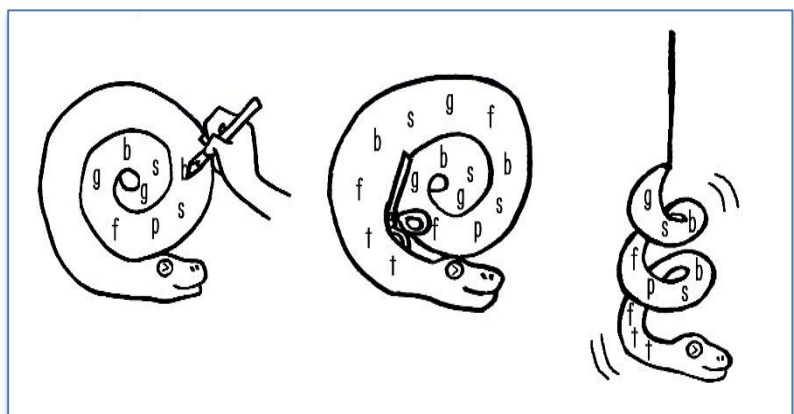
全部書けたら、モデルを見せて、確かめる。

8ビートのチャンツに合わせて、発音しよう。

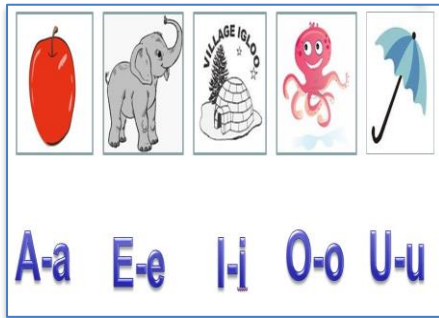
順番→ 無声音 **c f h k p q t s t x h** これを基本に、有声音の **b g d** などをまぜて一回に **10** 個聞き取らせると良い。慣れてくると、友だちどうしでクイズを出し合う。

☆例 **p, pig, c, cow** と単語をつけて助けても良い。

p の後に日本語の母音 **u** をつけて **pu** (ぷう) とならないように。

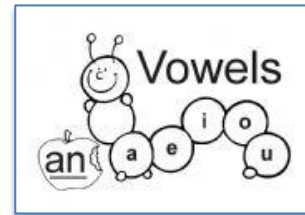


◇ 5つの母音



ここでは、基本の5つの母音の歌と効果に耳を澄ませます。

Aa apple
Ee elephant
Ii igloo
Oo octopus
Uu umbrella



Point!

5つの母音は歌をきいて真ん中の音に耳を澄ませよう

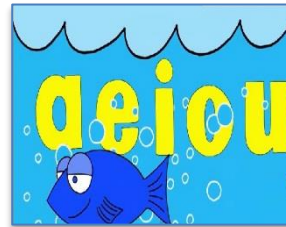
bed

The Vowel Song (aeiou の歌)

母音のデモは難しい、音源を使おう。

[https://www.youtube.com/watch?v=](https://www.youtube.com/watch?v=Hu1Ku7SJf_s&list=RDHu1Ku7SJf_s#t=96)

Hu1Ku7SJf_s&list=RDHu1Ku7SJf_s#t=96

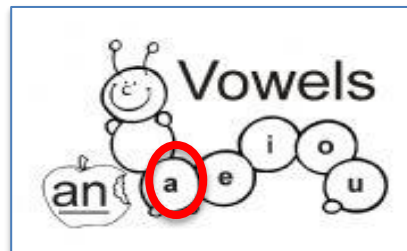


◇ CVC って何？

3文字の真ん中の母音を

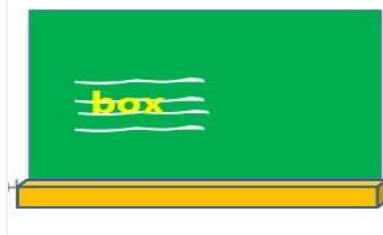
聞き取る

先生は、左の4つの単語を発音して、真ん中の音が a,e,i,o,u,のどれであったかたずねる。



van pan jam hat

4線は、簡単に
チョークで黒板に！

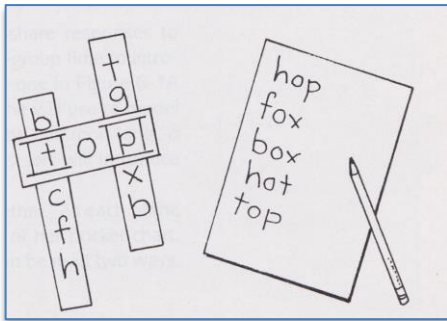


上から3本目の線を
赤色にして書くと良い

C:consonant 子音

V:vowel 母音

◇ルーラー・カード



ルーラー・カード（物差し）2本用意して、子音を書く。次に真ん中に、短い母音の **aeiou** を置いて、どんな3文字単語が出来るかな。ペアかグループで、棒状カードを上下にずらしながら、できた3文字単語を4線紙等を書く。そのなかには、実際には意味をなさない単語（ナンセンスワード）もあるが、音としては読むことができる。

例 **hop box fog** （有）

tox bog （無） 実際にはあるが身近な単語ではない

先生と答えをチェックして、発音を楽しむ程度でよい。

◇Fat Cat Sat on the Mat

語尾の音韻認識から音素認識へ

-ox -at を音で感じる

ことが出来る（音韻認識）

その音の綴りが -ox -at だと

わかる（音素認識）

1. 2年生で体験した「花いちもんめ」を想起する。
2. 先生の英語を聞いて同じ語尾(-ox -at)の語尾の韻を聞きとって、おはじきを机に並べる（音韻認識）

例 **Fox Mox in the Box**

3回同じ音を感じたらおはじきは3個

例 **Fox Mox in the Box** （-ox音のみ）

Fat Cat Sat on the Mat! （-at音のみ）

3. CDを聞いて母音発音 -at -en -ig -ox

を見つけながら写し書きをする

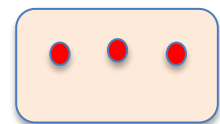
Fat Cat Pat

Red Hen Jen

Big Pig Mig

Fox Mox in a box

Pete Snake Pete →ここだけサイレントe



『Cat, Hen, Pig, Fox, and Snake, Run!』 アプリコット出版

練習帳とCDを聞いて進めよう。大文字と小文字の区別をして書く。音のかたまりに耳をしっかりと傾けて、語尾の音をとらえる。

◇9つのサイレントワード？

When Where Who What
Which How do(Do) can

5 W1H は国語の指導と

関連させるとよい。

友だちへのインタビューなど

ペアでの言語活動・Q&A は国語で培う。

5年生の9つに加えて、6年生で9つ、合計18のサイレントワードとなる。5年生の活動と同じように、ゲーム感覚で読もう。

Tic Tac Toe ゲーム（前述に同じ）ビンゴゲームでも良い。

センテンスを聞かせながら導入する。

1 9つのサイレントワードをカードに書く。

2 先生は、例をだしながら、カードを見せていく。

例 What is this? /What/What/What (何)

How do you call this? How/How/How (どうやって)

When	What	do(Do)
Where	Which	can
Who	How	the

◇デジカメ大作戦

身の回りの単語あつめ

この段階では絵本の

文字も少しわかる

身の回りの店・看板・メニューなどの写真をデジカメで撮り、読み方を推測する。読めるところを探す。読めないところは読まなくて良い。(仕事読みどおりのものは読みやすい) グループでデジカメ1台使い、校外学習した際に、写真を撮って集め、クイズを作ろう。町の中にも広告にも読めそうな字が出てくる。最初に先生が、Google image や英字新聞の広告などを使って、海外の町の写真などでクイズのモデルを見せるとよい。

例 CHERRY FREE Fruitcake CAR part time job



町に出ると、フォニックス通りでは読めない単語にかなり遭遇する。そこで初めてのフォニックスルールを二つ導入する(サイレントe 礼儀正しい母音)。ただし、ルールハントを楽しむ程度とする。

◇サイレント e

読んでみよう

nose 

○ △ ○ ×

nine 

time 

1 記号をつけて読む
○ (仕事読み) △ (名前読み) × (読まない)

2 いつも絵と一緒に読む

c a k e

単語のしっぽについた「サイレント e」は、前の母音にマジックをかけて名前読みにする。でも自分はサイレントで音なし

f i v e

単語のしっぽについた「サイレント e」は、前の母音にマジックをかけて名前読みにする。でも自分はサイレントで音はなしになる。 サイレント e は、「仕事読み」と「名前読み」の音が区別できていると分かりやすい。 例 cake five rose time

Point!

cake の語尾 **-ake** は、音韻認識でかたまりとを感じるほうが子どもには簡単である。








◇サイレント e のワークシート

問題を出すのではなく、先生が発音し、友だちとペアで取り組み、下から選ぶペアワークです。



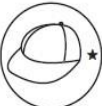



プリント作りでは、a の文字は、a (Comic Sans や Arial) を使うようにする。

Word List

- cane
- cake
- make
- tape
- name
- cape
- save
- bake

	□	a	□	e
	□	a	□	e
	□	a	□	e
	□	a	□	e
	□	a	□	e
	□	a	□	e
	□	a	□	e

c m p t c m v k
k n s c p n k b

	*cap	
	cape.	
	*pet	
	Pete.	
	wine.	
	*hop	
	hope.	
	*tub	
	tube.	

◇礼儀正しい母音



礼儀正しい母音とは、2つの母音が続きとき、1つ目の母音はアルファベット読みをし、2つ目の母音は読まない。たとえば、rain の場合は、ai は、仕事読みだと「ア・イ」となるが、1つ目の a は名前読み(アルファベット読み)で「エイ」と読み、後ろの母音は読まない。だから rain は、「レ・エイ・ン」と読む。

例 ai と ay ee と ea と ey ie、 oe と oa と ow ue と ui

Point!

tray way の語尾 や tree sea の語尾は 音韻認識でかたまりとを感じるほうが
には簡単である。かたまりの音素として -ay -ee -ea
上記のようにパワーポイントで紹介する程度にし、ルールの理解は中学校に委ねる。

◇絵本やメニューの 1 ページでルールハント



この段階では、フォニックスのルールを少し紹介した程度である。そこで、「仕事読みと」「先頭の音」「語尾の音」、上記の二つ「マジック e」「礼儀正しい母音」などをいかして、絵本を1ページをコピーし、グループでルールハントをしよう。先生が海外への旅で見つけたメニューや広告は本物感があって、楽しい。Google などでも題材が見つかる。

例 Fruit って、これはフルーツかな。ui は、礼儀正しい母音だから、u の名前読みだ。i は読まなくていい。

Cake は、-ake で習ったし、マジック e でもあるね。
ルールハントは、本当のレシピや文に「あっ！ここに習ったものがあつた！」と見つけることを楽しみ、読めない部分をあまり気にしないことが大切。拡大コピー版でハントをしよう。

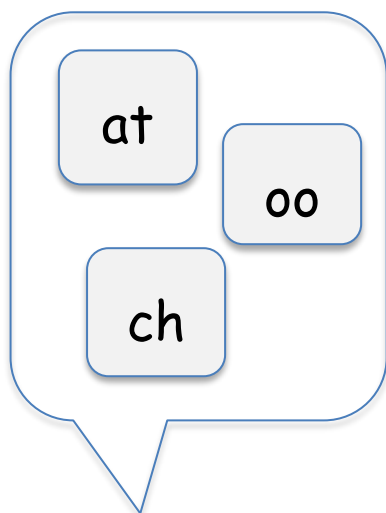
◇ 9つの音素と
クローズドタスク

音素 (phoneme) という
単語を構成する最小のユニット

2年生から、音のかたまりを意識し、5年生では、-ox-at など、音とつづりを結ぶ活動をしてきた。

音素(phoneme)は、単語を構成する最小のユニットであり、音素を意識すると、発音も英語らしくなり、また音素そのものに意味を持つ場合もある。

☆例えば phone phonics saxophone photo など、この **ph** は最小のユニットで意味単位としては「音」に関する。



音素例

- ・ 語頭 ch
- ・ 語尾 -at
- ・ 真ん中 -oo-

『A Good Trick』のクローズドタスク 9つの音素

1 	2 -at	3 	4 -ig	5 	6 -ox
7 	8 -ee	9 	10 -ip	11 	12 ch
13 	14 sh	15 	16 wh	17 	18 oo

Point!

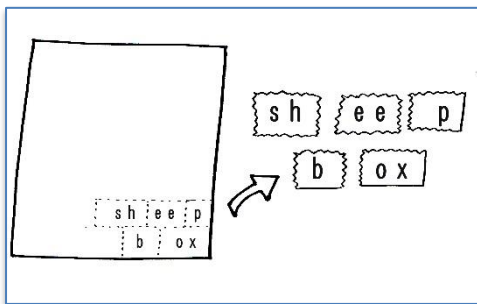
音素は、フォニックスの難しいルールよりも、音素そのものの方が、子どもが慣れるのは速い。音素は多数あるので、ここでは、オックスフォード・リーディングツリーの『A Good Trick』が、ゴールとして読めるよ

うに、9つの音素を先に学ぶ。ボトムアップ（音韻・音素認識・フォニックス等ルールを一つ一つ積みあげていく指導）とトップダウン（お話に浸る ストーリーテリング 内容のある言語活動で文字に触れさせる指導）と、両方で、「1冊の本が読めた」という成功感に早めに導きたい。本手引きではこれを「クローズドタスク」とする。「クローズドタスク」は、先生が自分で絵本を選び、作ることが出来る。

◇チョップスティックゲーム

友だちと楽しみながら

音素の分化と結合を体験する

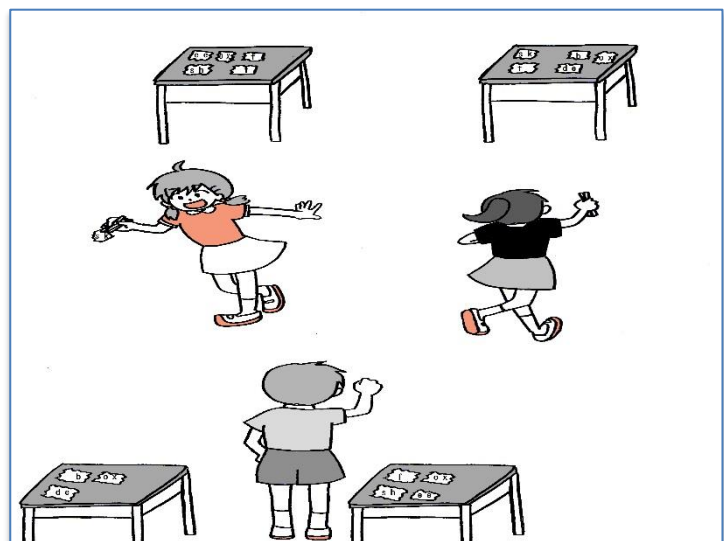


1. 左図のように、子どもが慣れ親しんだ単語を12語程度選びプリントを作る。
2. 4人ずつのグループになり、次に、先生があらかじめ波線を入れてある場所で、単語を手でちぎる
[Segmentation の認識]
3. ちぎった単語を混ぜて、グループごとに教室の一番後ろの机に置く。
4. 「よーい、ドン」でお箸（チョップスティック）をバトンにして4人でリレーをし、音楽が終了するまで、たくさんちぎった音素をおはしでつまんで来る。
5. 順番を待っている仲間は協力して、ばらばらになった音素を結合させてよい。
6. ストップの合図から、30秒間で、グループで、元通りの単語や結合できる単語にならべる。

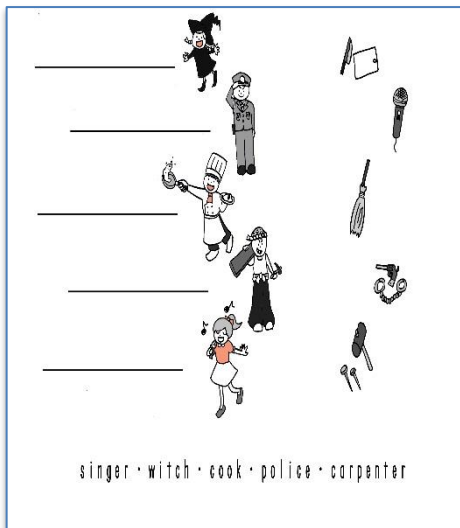
Point!

チョップスティックで紙切れをつまんでくる、子どもが大好きなゲームです。時間が少しかかからこそ、待っている子どもたちは、先生が指示をせずとも、取ってきた紙片を並べてもとの単語を再成しようとしています。中には、作戦をたてて、次は **ch** や **er** を取ってきてほしい、などと単語結合を予測する子どももいます。これは非常に楽しく、かつ、認知能力をはたらかせるゲームです。

「art・ist でもいいけど、dent・ist でもいけるね。」
「sh・ee・p だったけど tr・ee が作れるよ」
と気づかせながら取り組ませる。



◇文字入りのペアワーク



右の道具と線で繋ぎ下のワードリストから書き写して使うワークシート

今まで、音声から覚えた表現を真似したり、その一部を入れ替えたりして、ペアワークを行ってきた。ここでは、いつものペアワークを、簡単な英単語を使って行う。

- 1 先生は職業で使う道具カード見せてクイズを出す。

I use a microphone.

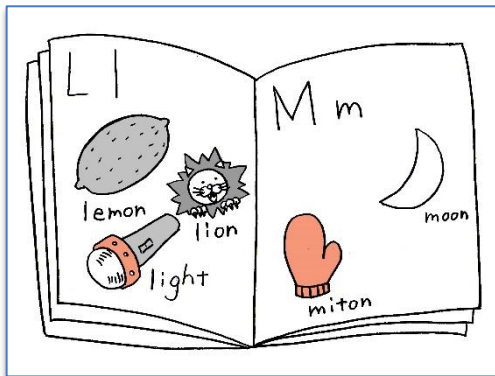
I like music.

I can sing a song.

Are you a singer?

- 2 ワークシートの下に、職業のカード単語を書き写し、書き写す (例 singer)
- 3 ワークシートを見て、ある職業に成りきって、絵と文字で、オリジナルカードにクイズを作る。使う道具も必ず絵で書く。文字と絵とジェスチャーが助けるので以前よりペアワークがスムーズになる。

◇Word Scrapbook



1. ワード・スクラップブックを作る。
2. 6年間で見たことがある単語で自分のブックを作る。
3. アルファベット順に作ってもよい。
4. 12月や季節の絵本風にしてもよい。
5. スポーツ、家族、好きな食べ物シリーズ等でもよい。
6. 工作感覚で、飛び出す絵本などにしてもよい。
お菓子の箱や英字新聞からの切抜きを使っても良い。
7. できたワード・スクラップブックは、廊下に掲示して5年生に見てもらおう。
8. 絵辞書を学級において調べてもよいが、自分でおおむね読める単語を集めると良い。左の図のように間違い (miton→mitten) も中には出てくるが、自分でワードサーチをすることが大切。I like pizza. のように短い文が出てきても良い。見つけるプロセスが大切である。

◇CLIL コーナー

「ピースメッセージ」

授業のコツ CLIL

CLIL(内容言語統合型学習)では、次の4つのCを入れて授業作りをします。

Content (内容)

Communication(やりとり)

Cognition (思考)

Community・Culture (文化 協学)

まず、先生が絵本などを用いて子どもにも内容のある話を聞かせるようにします。表現に慣れるためのペアワークなどは、今までの英語活動と同じです。内容について、授業で子供どうしが関わり合いながら、「考える場面」を必ず入れます。その際に、表現が難しくなりすぎないように「言葉の紐」を絞ります (**simplified language but not content**)。ここでは **I can**~に続く動詞フレーズ (**water the flower, protect the forest**) など子どもが日本語で表現したい内容を絵で描き先生と英語にしました。表現はチャンク(ひとまとまりの表現)で学びます。表現はシンプルにしますが、内容は簡単にせず、「高次の思考スキル」(**higher order thinking skill: HOTS**)を育てるようにします。たとえば、自分が「好きな食べ物」を選ぶときは、**HOTS**は起こりませんが、平和のために何が出来るか考えるには、**HOTS**が必要です。英語に出会ったばかりの子どもでも、幅広い教科や地球に関する内容を学び考えることで地球市民としての視野を広げるように授業作りをしていきます。

授業のコツ Dictogloss

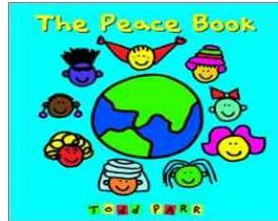
子どもが英語を学ぶときには、まずインプットが豊富なこと、次にプロセッシングの活動があることが大切です。インプットをしてすぐにアウトプットが上手いくということはありません。プロセッシングというのは、子どもが意味のある内容を何度も聞いて、真似をしたりつぶやいたりできるようにして言葉を取り込めるようにする指導法です。

この授業では、先生が選んだ『The Peace Book』の本を再話し、さらに1ページずつをカルタにしました。4人グループで、先生のストーリーリングを聞いて、カルタを協力して順番に並べていきます。これを「お話再生タスク」(**dictogloss**)と呼びます。中学校では文字を使った**dictogloss**が出来ますが、小学校では音声だけで行います。3回繰り返しても、楽しい活動で、中には、ジョーカー(先生が読まなかった話)も入れておくなどすると、子どもの集中力が高まります。ここでは、子どものチャンクのパターンを認知する力(**word pattern recognition**)を育てているのです。音声のパターンや文構造へのきづきを促す大切なプロセスです。このプロセスを経るとアウトプットに繋がりがやすくなりますが、グループで取り組むことが重要です。すぐに音声を聞けない子どもも、友だちから学んで、ついていくことが出来ます。言葉は人と関わりあう環境でしか、上達しないのです。

U小学校の6年生で行われた「ピースメッセージ」の授業を紹介します(授業者:岡本・塚田)。

この授業は「音声から文字への5ステップス」を学んできた6年生ならではの、「先頭文字に注意がいくこと」「3~4文字程度の簡単な単語を推測して読めること」が活動の根底にあります。従来の暗記して読むという学びでは、友達から音声でメッセージをもらってセンテンスを見ても、初めて出会う単語を推測して読むことはできません。コミュニケーションや意味のある活動に自然に文字が入るようにステップを続けています。

小学校6年生(U小学校)「ピースメッセージ」CLIL(内容言語統合型学習)



この絵本は、担任の先生が学級の子どもたちのために見つけたものです。少し難しい表現もあるので、「I can...」の表現に再話して、読み聞かせました(Retelling)。



生徒は、総合学習で、半年にわたる戦争と平和の学習を終えた直後です。**12歳:6年生**にとって日本と世界の平和のことはこの時期、最大の関心事です。絵本を聞き、自分でも出来そうだと思う平和へのメッセージ(**I can speak my language**等)を絵で描きLIで表現、T-Cのやりとりで伝え、ALTに質問、英語にしました。
* 音声から文字指導は5ステップスで実施、生徒は先頭音や10程度の音素が分かる段階です。

逆向き設計 (6時間)

自分のピースメッセージを絵で表す(母語)→JETとInteractionで英語に

友だちからもらったメッセージをアレンジしてグループの「Peace Message」を完成→日本から平和を発信したい

担任が「リテリング」した I can~ での The Peace Bookの読み聞かせ→音声Dictogloss

担任が「リテリング」した I can~ での The Peace Bookの読み聞かせ

ユニセフ「世界の子どものピースメッセージ絵画展」を英語で紹介

NEYAGAWAプロジェクト 英語学習 ペア・グループ学習習慣形成

音声から文字への5ステップス (Step3)先頭文字と10の音素段階

日本語での平和プレゼンテーションを経験

グループでiPadやタブレットで学ぶアクティブ・ラーニング経験

6年生は社会「歴史学習」「平和学習」について半年程度学んできている 総合 平和へのメッセージプロジェクト 修学旅行などで資料収集



◇海外の子どもたちの学びの様子

Point!

日本の小学校での英語指導は始まって間もないため、教師は自分が学んだ方法からの発想の変換が最初は大変である。

音声からの指導を大切にし、意味のある活動を行い、ペアやグループでの言語活動を経験したあとで、文字に触れることが大切である。文字さえ読めれば、高学年はもっと楽しくなるとか、英語嫌いがなくなるということではない。またフォニックスを頑張って教え込もうとするほど、子どもはまた、「新しいルールがふってきた」と英語がいやになる傾向がある。5ステップの活動はそういう意味で1回8~10分程度が望ましい。また45分で2つぐらいの活動をじっくりして、次の授業では5ステップはしない方法もある。グループで学びあうことがとても重要である。

ヨーロッパやアジアでは、小学校での英語指導歴が日本よりずっと長い。そのため、12歳ぐらいまでの子どもがフォニックスは退屈がることを教師はよく知っている。十分に音声に耳を傾けさせ、英語のリズムを捉えるようにさせながら、ストーリーを聞かせたり、初めて書き写した単語を楽しい工作に仕立てたり、教室に掲示をしたりと、工夫をしている。その様子を少し写真で紹介する。40人の子どもが毎日生活する教室に、子どもの発想をいかした楽しい英語空間が生まれるよう工夫しよう。



写真1 「はらぺこあおむし」壁面に
アメリカ合衆国 5歳 ネイティブ

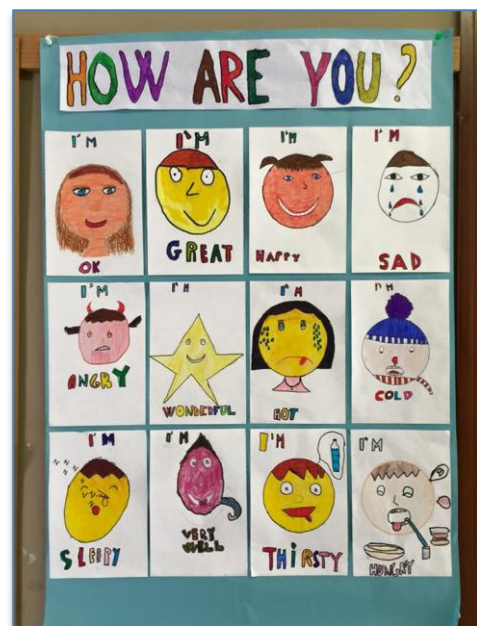


写真2 How are you?
イタリア 7歳



写真3 We are going on a bear hunt. の場面
イタリア 8歳



写真4 初めてのデコーディング(読む)
イタリア 9歳



写真5 ストーリーを聞いて出てきた果物を描く。
写真4を見てゆっくり写し書き
イタリア 9歳

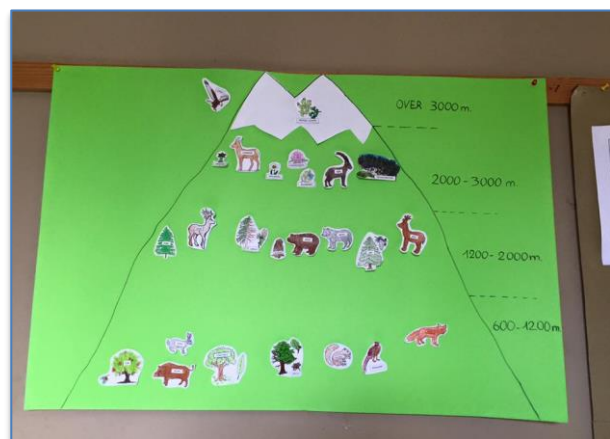


写真7 地図を見て動物マップ作り
動物の住んでいる場所や高さをマップで
見つける。 イタリア 9歳



写真8 チーズ工場に見学に行くまでの
CLILプロジェクト (牛乳の旅)
イタリア 8歳



写真9 郊外学習で「木」を見つける。
季節を見つける。イタリア 8歳



写真11 木に季節の語彙を絵で貼り、英語で紹介する。ノートに貼って飛び出す絵本を作る。字は写して書く。
イタリア 8歳

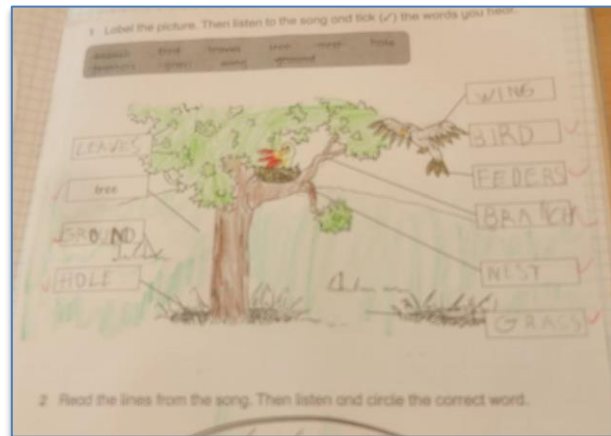


写真10 写真9の次に「木」のストーリーを聞いて、HOLE BRANCH NEST と学ぶ。上のリストからゆっくり写し書きフォニックスは9歳からなので、読みかたはまだ分からないが、聞いた英語の意味はわかる、慣れている大文字を写している。
CLILと文字 イタリア 8歳



写真12 惑星のビデオをみて、太陽系のことを英語で知る。音声情報と文字情報は結べるがまだ書けない。先生がタイプした情報をもらって貼り、惑星のお皿を作る。
CLILと文字 イタリア 10歳



写真 13 どんな天気の日が好きか絵で描き文を書く。綴りは聞いたままに書く子どもが多いが表現することが大切とのこと。(例: My team → My Teme ×)アメリカ合衆国 7歳ネイティブ

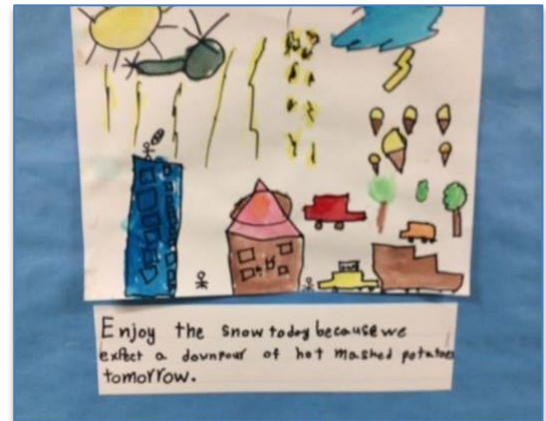


写真 14 心の中のお話をやっとなにに書けるようになった。空からアイスクリームが降ってくる話を書いている。アメリカ合衆国 8歳ネイティブ



写真 15 7歳の教室にある一人ひとりの読みの力に合わせた「デコーディング・ボックス」アメリカ合衆国 7歳 ネイティブ

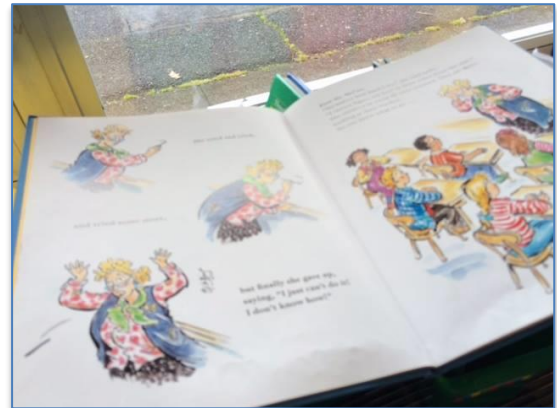


写真 16 「デコーディング・ボックス」の1冊難しい字だけの本を読む子どももいるが、もっと簡単でも読めない子どももいる。リタラシースキルの差は大きい。アメリカ合衆国 7歳 ネイティブ

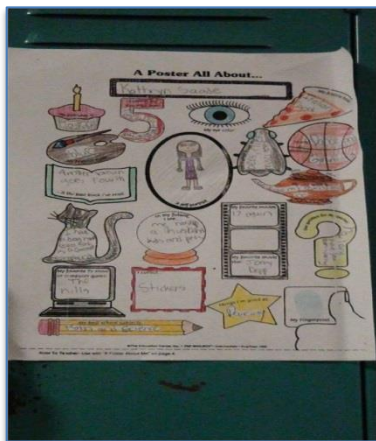
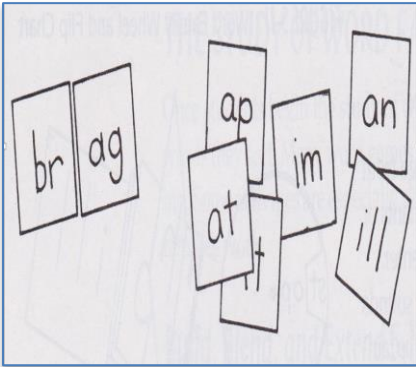


写真 17 自分のポスターを書く。英語の音声と綴りの関係は、日本語よりもはるかに難しい。9歳ぐらいでやっとな、ミススペリングがなくなる。アメリカ合衆国 10歳 ネイティブ

このページ以降は、中学校1年生の英語科で取り組んでください。5ステップをもう一度、音韻認識が身についているか音声から復習し、名前読みや仕事読み、クローズドタスク等を行ってから、次に進むようにしてください。いきなりここから始めるのは、わからない生徒が出るので危険です。

◇ブレンディング

Word-Maker カード



音素

(単語を構成する最小のユニット)

知らない単語でも読めてしまうが、身近ではない単語は教える必要はない

先頭の音素

(Alliteration)

語尾の音素

(Rhyming)

真ん中の音素

(within the words)

音素カード(巻末資料をみてください)を用意して、仕事読みを想起して、読む

例 最初の音ブレンディング fr dr fl

fr +og

dr +um

fl + ag

例 語尾の音ブレンディング -at -uck -ake

オンセット・ライム

c +at (音素)

tr +uck (音素)

m +ake (音素 /サイレント e)

例 真ん中の音ブレンディング -oo- -ea- -ee-

f+ oo + t (音素)

dr+ ea+ m (音素 /礼儀正しい母音)

sw + ee +t (音素)

音素は60以上あるが全部教える必要はない。

教科書を読む際にも「あっ、このルール習った!」と楽しみながら進める。英単語に「かたかな」をふって丸暗記する方法では、語彙が増えるほど、暗記でなくなり、英語が嫌いになりやすい。

◇サウンドボードゲームを作ろう

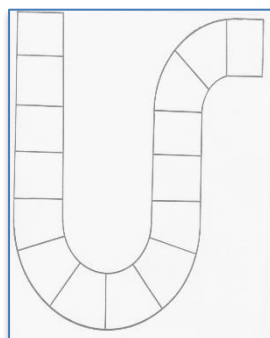
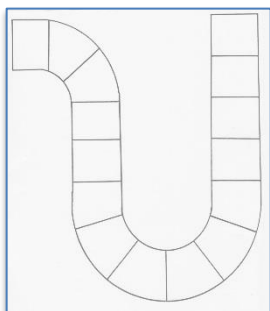
先頭音に来るかたまりの音素リスト

Sound Board for Beginning Blends		
Beginning Blends	br broom	sc scooter
bl block	cr crab	sk skate
cl cloud	dr drum	sm smile
fl flag	fr frog	sn snail
gl glasses	gr grapes	sp spider
sl slide	pr present	st star
pl 2+1=3 plus	tr tree	sw swing
tw twins	qu quilt	

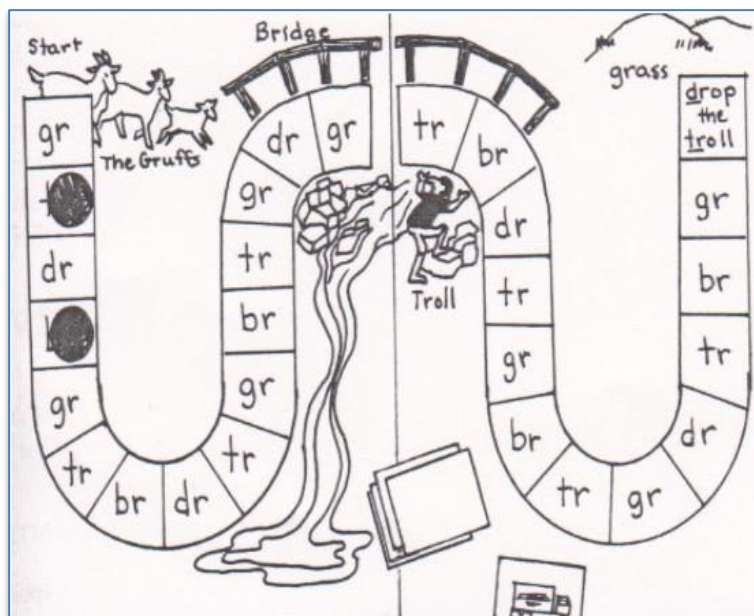
1. 下図のようなプリントを用意する。
2. 左の先頭音（絵がついているもの）を用意する。
チャンツに合わせて絵を見ながら発音する。
3. まず、一人ずつ、2を切り取ったり、自由に加えたりして、自分のサウンドボードゲームを作る。
4. 「1回休み」「ここで止まったら、チップを真ん中に○つ出す」など、絵やトリックを加える。
5. 3~4人で、ボードゲームの最初と最後をつなぎ、ゴールをどこにするか決め、サイコロを用意して、ゲームを始める。サイコロの数だけ進む。
6. 作った単語を発音することを忘れて、サイコロを振ったら、チップを2つ真ん中に出す。
7. 最初にゴールにチップが全部なくなったら負け。

☆ゲームのルールは、話し合っって楽しいものにする。

ボード図



オリジナルボードゲームを工夫しよう

















指導資料&ワークシート






◇名前読みと音読みについて(教師用)

	閉音節	開音節
	音読み	名前読み
	短母音	長母音
a	ア[æ]	エイ[eɪ]
e	エ[e]	イー[i:]
i	イ[i]	アイ[ai]
o	オ[ɑ]	オウ[ou]
u	ア[ʌ]	ウー[ju:]

◇母音の例（左が短母音・右が長母音）











Short Vowels			Long Vowels		
a		cat	a		cake
					a
					rain
e		bed	e		feet
					e
					leaf
i		pig	i		kite
					i
					light
o		sock	o		bone
					o
					soap
u		cup	u		tube

Sound Board for Beginning Consonants and Digraphs

Beginning Consonants	j  jug	s  sun
b  bell	k  key	t  tent
c  cat	l  lamp	y  yarn
d  dog	m  mouse	w  watch
f  fish	n  net	v  van
g  ghost	p  pig	z  zip
h  hand	r  ring	
Beginning Digraphs	ch  chair	th  thumb
	sh  shovel	wh  wheel

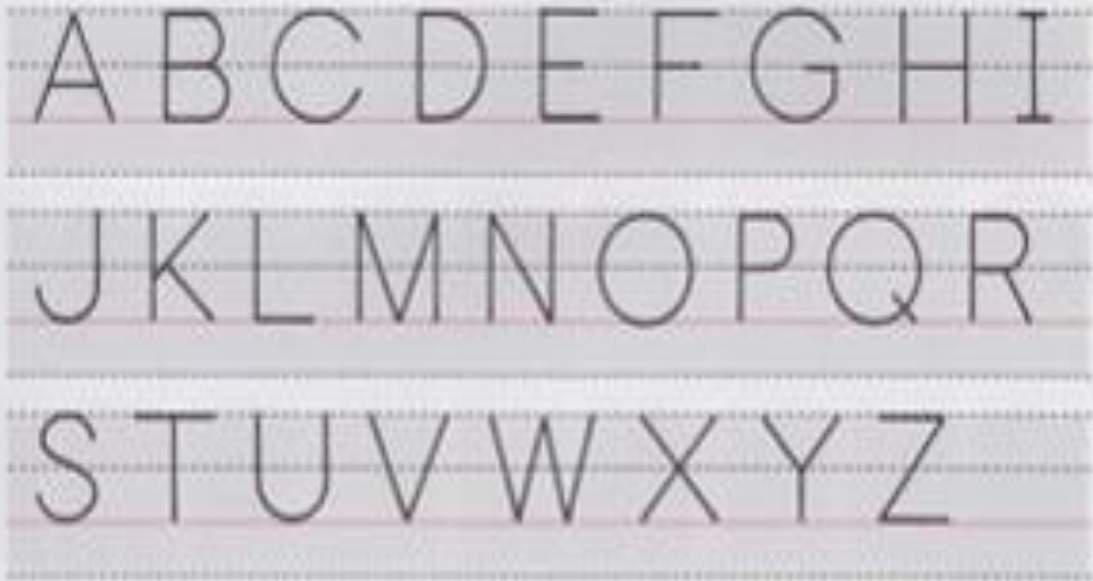
◇出だしのブレンディング（教師用）

Sound Board for Beginning Blends

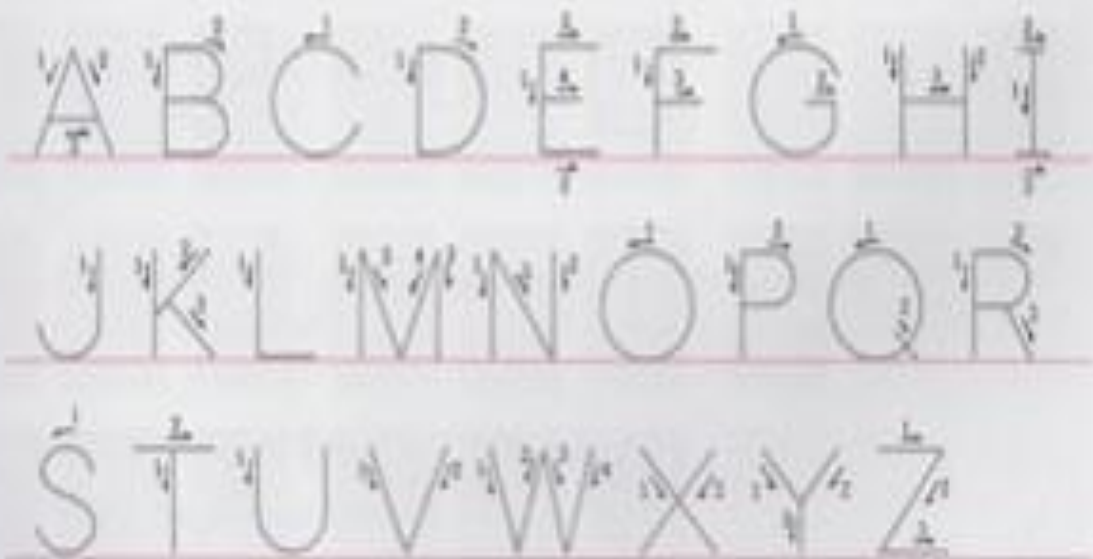
Beginning Blends	br  broom	sc  scooter
bl  block	cr  crab	sk  skate
cl  cloud	dr  drum	sm  smile
fl  flag	fr  frog	sn  snail
gl  glasses	gr  grapes	sp  spider
sl  slide	pr  present	st  star
pl $2+1=3$ plus	tr  tree	sw  swing
tw  twins	qu  quilt	

大文字

1. いきましょう。(Say.)



2. かきましょう。(Write.)



小文字

1. いいましよう。(Say.)

a b c d e f g h i

j k l m n o p q r

s t u v w x y z

2. かきましよう。(Write.)

a b c d e f g h i

j k l m n o p q r

s t u v w x y z

◇ワークシート「MAP SYMBOLS」・・・イタリアの小学校の教材から

NAME ()

1. 地図帳で、知っている日本の地図記号を探して書き入れよう
2. 校区の目印やよく行くところのオリジナル記号を考えて地図を描こう。
3. 「文房具を買いに行く日」「友だちの家に行く日」などと決めて、道案内をしよう。

My school area

Colour the symbols of the places that are in your school area.

 church	 post office	 supermarket	 chemist
 bakery	 book shop	 telephone boxes	 post boxes
 bus stop	 play area	 park	 newsagent
 _____	 _____	 _____	 _____

Draw a map of your school area using the symbols of the key.




◇ワークシート 音の足し算

NAME ()

音の足し算
b a g
子音+母音+子音

p i g b u g d o g b a g c u p

● ● ● ● ●



The illustration shows five items in a row, each with a small black dot above it. From left to right: a white dog sitting, a grey cup filled with dark liquid, a pink pig, a black ladybug with orange spots, and a grey bag.

NAME ()

① 三つの音読みを声に出してから、かたまりに○をつけよう。(例：OX)



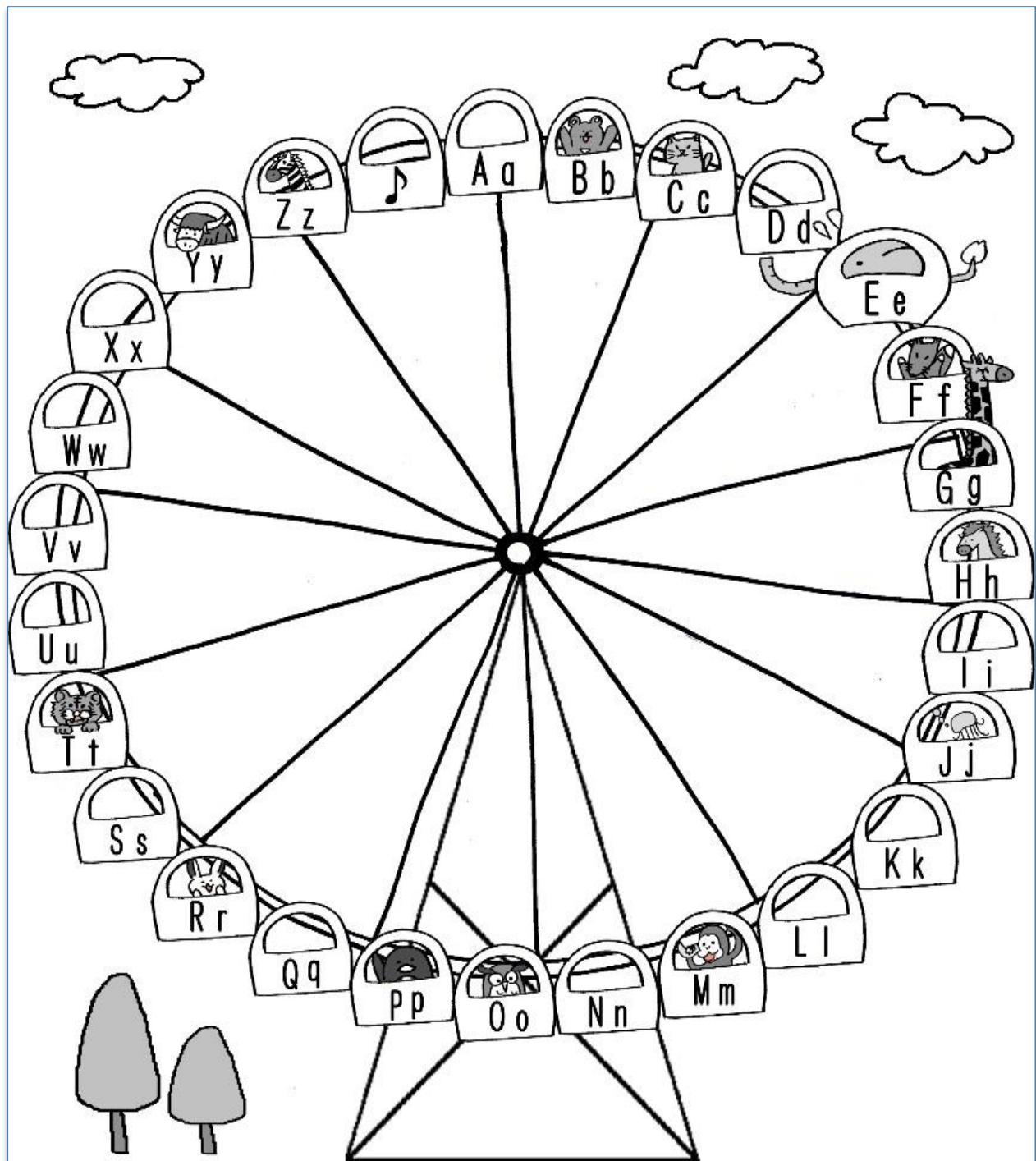
② 先生の絵本のストーリーテリングを聞こう。つぎに、かたまりに○をつけよう。



◇ワークシート「大文字—小文字ペアシート」

NAME ()

- ① **A-a B-b** のペアをサインペンでなぞろう。もし、上手く書けない文字があったら、観覧車の内側に、2回書いて練習しよう。
- ② 全部書けた人は、観覧車の内側に、そのアルファベットで始まる単語を絵で書こう。
- ③ 絵辞書をつかって単語さがしをして、写し書きをしても良い。 例 (**Z-z zebra**)

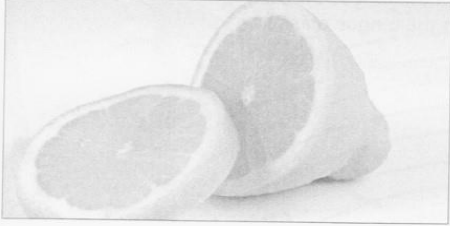
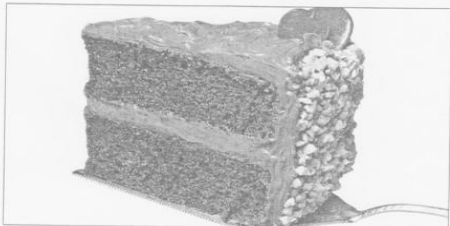






◇ワークシート「4つの味と旨味に分けよう」 Sense of Taste&Umami
NAME ()

- 1 How does it taste? 4の味覚で合うものに丸をつけよう
- 2 4つの味覚に分類できないものはあるか考えよう

Sense of taste

Circle the correct taste for each food.

 sweet salty sour bitter	 sweet salty sour bitter
 sweet salty sour bitter	 sweet salty sour bitter
 sweet salty sour bitter	 sweet salty sour bitter

4つの味覚に分類できない5つ目の味覚をさがそう (UMAMI)













tomato

◇ワークシート「大文字と小文字のマッチング」 BIG LETTERS & SMALL LETTERS







NAME ()

① 単語をみんなで発音してから線で結ぼう。




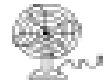






Match the upper-case and lower-case letters. Name _____

	A	b	
	B	a	
	C	d	
	D	e	
	E	c	




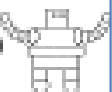






Match the upper-case and lower-case letters. Name _____

	K	m	
	L	k	
	M	o	
	N	i	
	O	n	

Match the upper-case and lower-case letters. Name _____







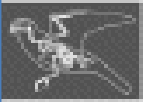

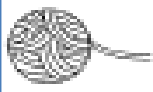



	F	h	
	G	f	
	H	g	
	I	j	
	J	i	

Match the upper-case and lower-case letters. Name _____

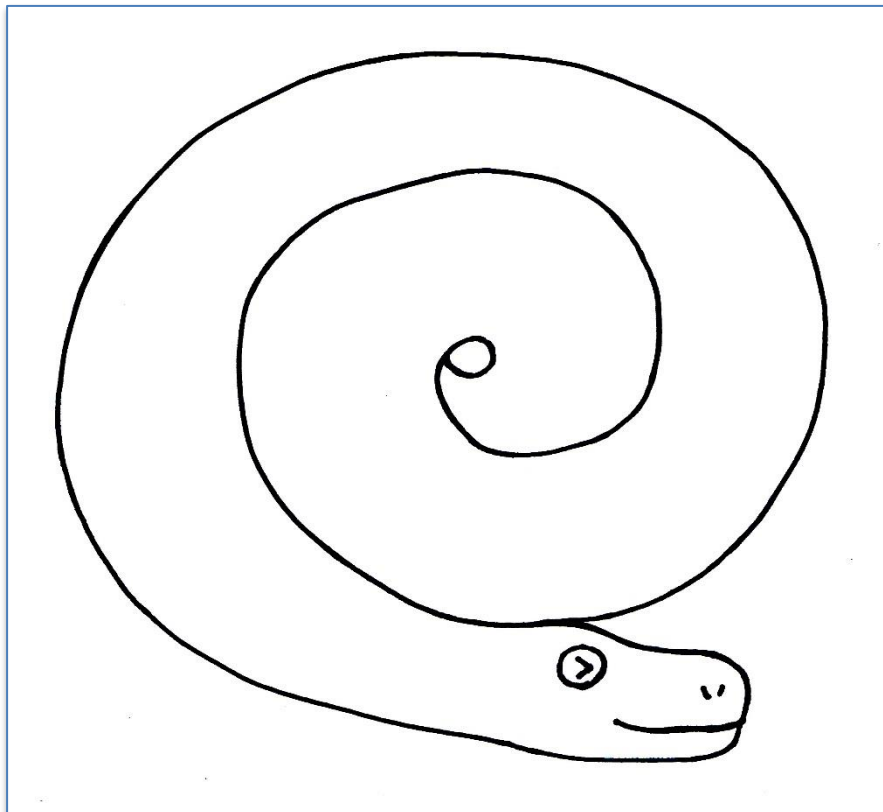
	P	q	
	Q	r	
	R	s	
	S	t	
	T	p	

注意：xylophone（木琴）などは、音読みどおりの、単語を代用するほうが良い。

Match the upper-case and lower-case letters. Name _____

	U	v	
	V	u	
	W	x	
	X	y	
	Y	z	
	Z	w	





へびカード 「子音をカッコよく発音しよう」




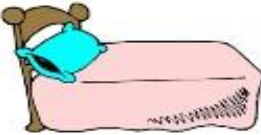






◇CVCって何？





NAME ()

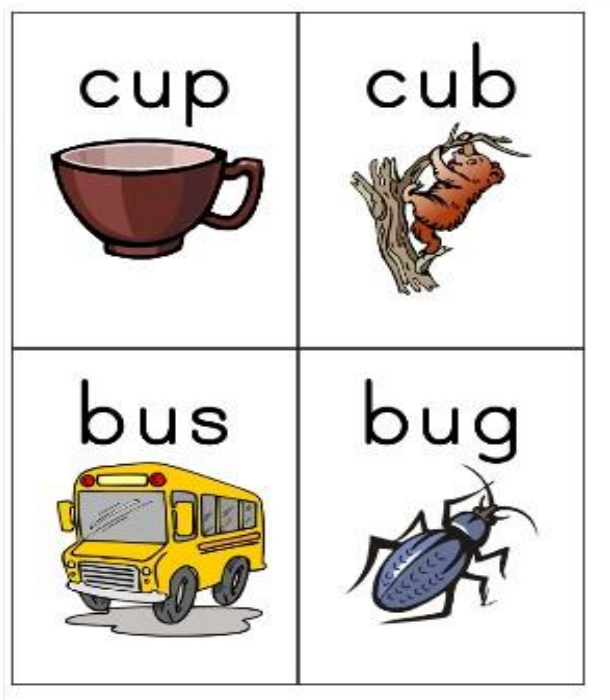
① 3文字の真ん中の母音 V を聞き取ろう。(音を聞く前に絵や文字を見せずに当てよう)

van 	pan 
jam 	hat 

net 	jet 
hen 	bed 

wig 	pin 
pig 	lip 

log 	top 
pot 	pop 





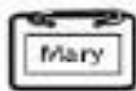





注意 音だけで **a e i o u** が分かるようになったら、これらの 20 の単語をカルタゲームにして、グループ数のセットを作成しよう。「先頭文字」「真ん中の文字（母音）」などに注意を向け、「グループメモリーゲーム」「マッチングゲーム」「ビンゴ」など様々な遊び方が工夫できる。4人グループで助け合うゲームをとおして学ぶと良い。

◇ワークシート「サイレント e」



NAME ()

(a→a と表記)

Word List cane cake make tape name cape save bake		<input type="text"/>	a	<input type="text"/>	e																
		<input type="text"/>	a	<input type="text"/>	e																
		<input type="text"/>	a	<input type="text"/>	e																
		<input type="text"/>	a	<input type="text"/>	e																
		<input type="text"/>	a	<input type="text"/>	e																
		<input type="text"/>	a	<input type="text"/>	e																
		<input type="text"/>	a	<input type="text"/>	e																
		<input type="text"/>	a	<input type="text"/>	e																
<table border="1"> <tr> <td>c</td> <td>m</td> <td>p</td> <td>t</td> <td>c</td> <td>m</td> <td>v</td> <td>k</td> </tr> <tr> <td>k</td> <td>n</td> <td>s</td> <td>c</td> <td>p</td> <td>n</td> <td>k</td> <td>b</td> </tr> </table>						c	m	p	t	c	m	v	k	k	n	s	c	p	n	k	b
c	m	p	t	c	m	v	k														
k	n	s	c	p	n	k	b														

◇ワークシート「サイレント e」

NAME ()

	*cap cape.	
	*pet Pete. (人の名)	
	*win wine.	
	*hop hope.	
	*tub tube.	

◇ワークシート「なりきりジョブ」

NAME ()

singer · witch · cook · police · carpenter

(police → police officer)

「フード・チェーン(食物連鎖)」

How we can design a CLIL lesson

Written by Kazuko Kashiwagi

Osaka Kyoiku University, 2015

CLIL's 4Cs: Content/Communication/Cognition/Community・Culture/

We aim at eliciting students' cognitive thought by providing some authentic teaching materials which the teacher, as a creative designer of lessons, must study the subject profoundly and collaboratively. For instance, that language teacher and the content teacher must work together.

Science CLIL : Who Eats What? (Food Chains and Food Webs) : Age 11 -13

1. Aims(目的)

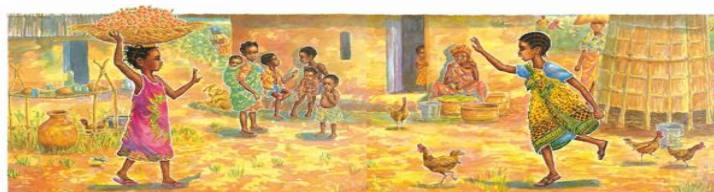
- 1)Have students become familiar to science-specific language such as "eat & be eaten", "linking in food chains" and "description of animals behaviors" .(**Content & Subject-specific language**)
- 2)Have students get close to nature and how African children live with nature such as its wonderfulness and respectiveness in everyday life. (**Global community**)
- 3)Have students identify the food chains and food webs in everyday life.-All over the world, green plants and animals are linked in food chains. We human beings are part of many food webs. (**Cognition & Scientific view/ Communication**)

2. Target Sentences(目標表現)

Language Frame (言語フレーム・言語紐)	Words&Phrases (単語&フレーズ)
This is my ----- (a body part).	Animals in Africa (monkey, elephant, parrot, antelope, chameleon, lemur, etc.)
I eat pineapples with (a body part). Pineapples are eaten by X (For <u>Junior H.S</u>)	Insects (grasshopper, butterfly, mosquito)
I am tall. I am ----- meters high. (I am twice as tall as X)	Worms Grass-eater (a herbivore)
A X ate a Y. (Storytelling)	Meat-eater (carnivore)

[Handa's Surprise]


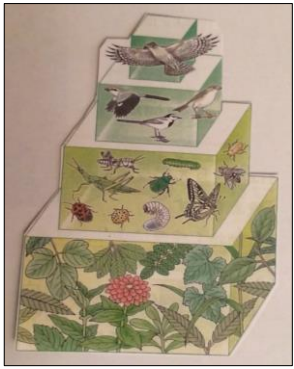
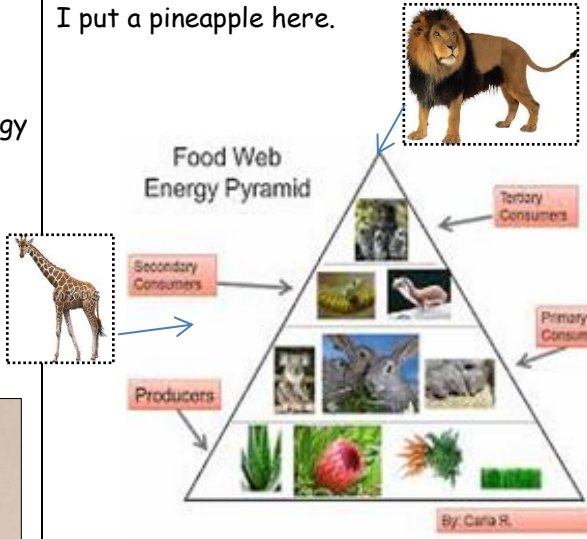
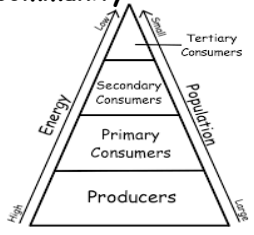
(絵本)



"Hello, Akeyo," said Handa. "I've brought you a surprise."

3. Lesson Procedures (学習の流れ) ー on (8 時間)

Topics (トピック)	Lesson Procedures (指導の流れ)	Aims & Materials (ねらい&教材)
<p>1 What do you know about animals in Africa? (2h)</p> <p>「アフリカの動物について知っていること」</p>	<p>Introducing animals in Africa (pictures & a movie clip& map)</p> <p>Talk about African children and everyday life.</p> <p>"What did you see in the picture?"</p> <p>"How do children live with nature?"</p> <p>Teaching words and phrases on animals、 their body parts and the ecology of animals.</p>	<p>Activate children's background knowledge.</p> <p>子どもの背景知識活性化</p> <p>content・culture</p> <p>「生態マップ」</p> <p>「世界の果ての通学路」</p> <p>「動物の生活と写真」</p>
<p>2 Enjoy the story of "Handa's Surprise"(2h)</p> <p>「ハンダのサプライズ」 (絵本)</p>	<p>Who Eats What?</p> <p>Handa's Map ⇒ do the pair work linking the animals and fruits.</p> <p>Teaching words and phrases on fruits and animals through the story.</p> <p>A monkey ate a banana (A X ate a Y).</p> <p>【Literacy Coach & Phonics】 (別冊)</p>	<p>Enjoy the story and review of "Who Eats What?"</p> <p>content・communication</p> <p>ストーリーを聞いて、アフリカの生活、単語や表現に慣れ親しむ</p>
<p>3 Find Food Chains through solving three hints quizzes (1h)</p> 	<p>Example:</p> <p>1 My droppings (picture).</p> <p>2 I eat fruits or insects with a sharp bill.</p> <p>3 I am very colorful. (red orange green)</p> <p>(Parrot: A herbivore)</p> <p>Fruits and insects are eaten by parrots.</p>	<p>Find that green plants and animals are linked in food chains.</p> <p>cognition</p> <p>動物と食べ物が繋がっていることに気づく (食物連鎖)</p>

<p>4 Choose an animal and draw Food Chains (2h)</p> <p>Collect and observe "Scars of Food" 食痕 (観察学習)</p> 	<p>Example:</p> <p>An owl eats a parrot. (At the tops of food chains)</p> <p>A parrot eats passion fruits.</p> <p>A parrot eats insects, too. (It's a consumer)</p> <p>Fruits are producers.</p>	<p>Look over the animal picture book and find Food Chains(Website)</p> <p>Enjoy the field work of observing an authentic "Scars of Food" of ladybugs</p> <p>野外実習：自然の中での食物連鎖を観察しよう(L1 use)</p> <p>(テントウムシの食痕収集フィールドワーク等)</p> <p>体験をとおして考える</p> <p>活動での母語の使用あり</p> <p>cognition • community</p>
<p>5 Categorize foods、insects and animals into Energy Pyramids (1h)</p> <p>Create the energy pyramids of my own</p> <p>啓林館 「わくわく理科5年」</p> 	<p>Example:</p> <p>I put a lion here.</p> <p>I put a giraffe here.</p> <p>I put a pineapple here.</p> 	<p>Discuss and categorize foods and animals</p> <p>調べた食べ物、昆虫、動物を、自分のピラミッドに描こう</p> <p>Give a presentation and compare the pyramids that students made for each other.</p> <p>グループで発表し合い、比べよう。</p> <p>cognition • communication • community</p> 

4. Teaching Materials &References (教材&参考文献)

- ・ Eileen Browne (1995) *Handa's Surprise*、Walker Books Ltd
- ・ Patricia Lauber(1995) *Who Eats What?*、Harper Collins Publishers (Let's read and find out science)
- ・ 熊谷 さとし・安田 守(2010)「哺乳類のフィールドサイン観察ガイド」文一総合出版
- ・ 松岡たつひで(2014)「ちきゅうがウンチだらけにならないわけ」福音館書店
- ・ 小学校6年理科(わくわく理科6年): 啓林館 (食物連鎖) pp.48-68
- ・ Food Chains ,Food Webs、Energy Pyramid in Ecosystems-Video for Kids、Energy Pyramids

5. Activities & Field Work(言語活動&観察実習)

・ To encourage students' cognitive thought、the teacher needs 1) to be proactive in anticipating how students can discover the linking between animals and food、2) to be creative in making worksheets to support their pair works or group collaboration.

・ To have students get closer to nature、the teacher needs to take children to field work of observing an authentic "Scars of Food". For instance、Lady Bugs' Scars can be observed in the schoolyard. Squirrels' Scars can be observed in the forest.



身近でできる観察実習：テントウムシの食痕 (しょくこん)

(※体験して考える場面をしっかり入れる L1 Use)

Work Sheets

① Handa's Surprise Word Mat



② Decoding (デコーディング) :

絵本に出てくる繰り返しを聞かせながら、音声と文を一致させていく (ここでは、Handa's Surprise) 冠詞 The や a 三人称単数-s などは音声で聞かせる程度にする。

ex. The monkey eats a banana.



The elephant eats a mango.



Let's Find "Food Chain"



ex.

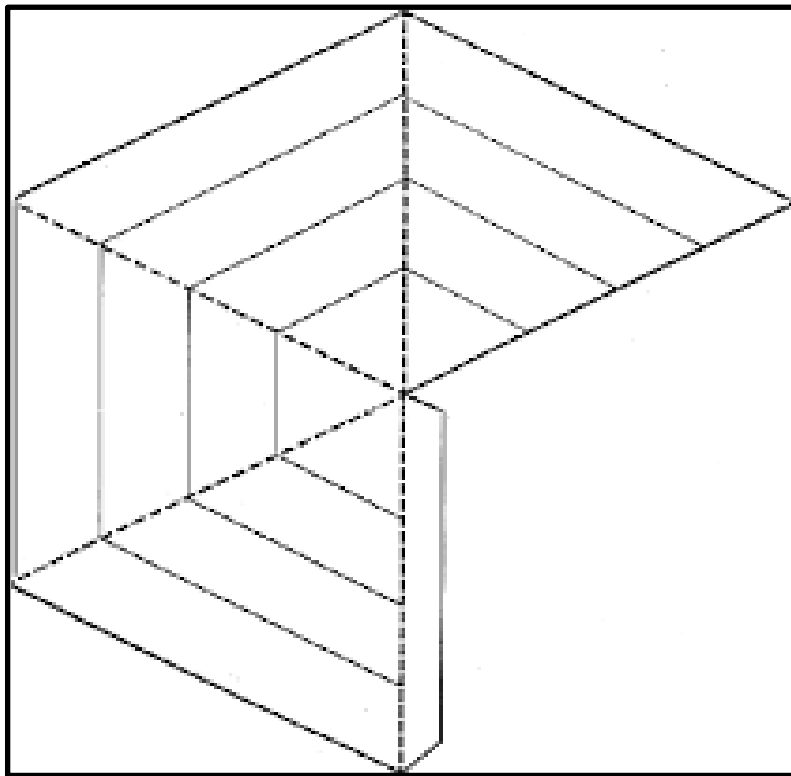


leaves

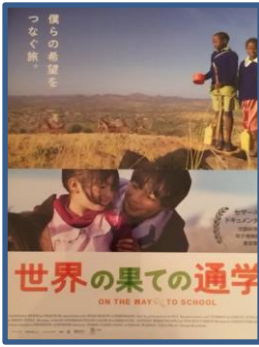
giraffe

lion

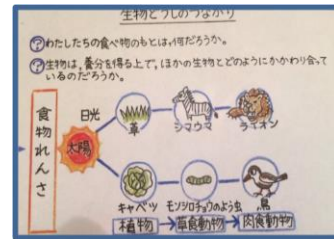
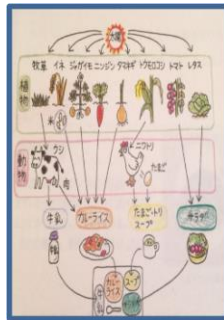
③Energy Pyramids



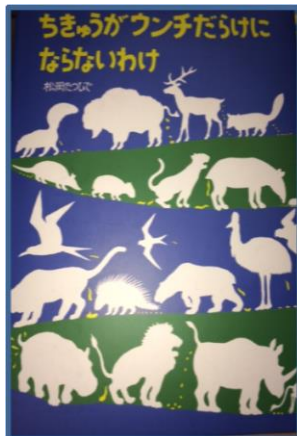
教材作り



「世界の果ての通学路」DVD 角川書店 2015年
 (On the way to school) 地球を通学路という観点から捉えたドキュメンタリー (ケニア アルゼンチン モロッコ インド)



「わくわく理科6年」



「ちきゅうがウンチだらけにならないわけ」
 松岡ただひで

Point!

授業のコツ CLIL の教材選び CLIL の母語使用場面

CLIL(内容言語統合型学習)では、次の4つのCを入れて授業作りをします。

- Content (内容)
- Communication(やりとり)
- Cognition (思考)
- Community・Culture (文化 協学)

この4つのCを入れつつ、「言語紐」をシンプルにすることは、簡単ではありませんが、理科や算数は比較的CLILの授業が創りやすいのです。図形を描く・動かす・対象図形を作る・棒グラフに表す(算数)ことや、身の回りの昆虫や動物の住みか・簡単な実験・図や表に表す(理科)では、英語をシンプルに絞ることで、表現を何度も聞いて使う場面を創ることができます。導入、お話、ペアワーク等は英語で行うとよいですが、活動に夢中になっている場面では子どもは日本語をつぶやきます。言語活動場面では英語を、考えたり創ったりする場面では日本語も使う等、母語使用場面をはっきりさせて、「Let's use English」と励ましつつ、先生も英語に戻ると良いでしょう。

「小学校外国語活動 ～CLIL：他教科の内容を言語活動に生かすコツ～」

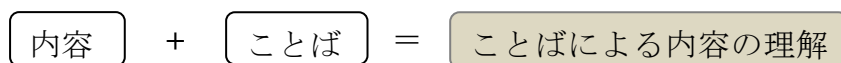
大阪教育大学 柏木賀津子

CLIL（クリル）の魅力

小学校外国語活動が始まって3年目、『Hi! Friends』教材の活用やその発展的な授業への取り組みが広まってきています。外国語活動ではまだ英語に触れたばかりなので、難しい語彙や表現を使った内容ではできませんし、また、するべきではありません。しかし、多くの担任の先生は、習っている英語は初歩でも、どうにかして小学校5年生や6年生が、心からおもしろいと感じ知的にも興味を持てる内容を教材化できないかと思っておられます。

ここでは、『CLIL：Content and Language Integrated Learning』（内容言語統合学習）を紹介したいと思います。こ「体育とか図工を英語でやるイマージョン教育みたいなもの？」という印象をもたれるかと思いますが指導法や教材に違いがあります。そこでまず、1) CLILとは？ 2) CLILのコツ、3) CLILの実践 4) CLILの可能性の順でCLILの魅力を紹介します。

1) CLILとは？



CLILとは、教科科目などの内容とことば（目標言語）を統合した学習を意味します。笹島（2011）に拠ると、「アジアの子どもが英語で算数や理科を学ぶ、ノルウェイの中学生がドイツ語で紙芝居をする、日本の大学生がイタリア語で料理を学ぶ等は、このアプローチである。CLILアプローチは、言語学習では欠けてしまいがちになる学習者自身の意欲を引き出す可能性がある。学習者自身の発見と高い認知操作を促すとされ、ヨーロッパ等で広く実践されている。」ということです。筆者は、スペイン、フィンランド、台湾でCLILの授業を見る機会がありました。そこでは、児童はすぐに外国語（例：英語）を使いこなせないで、英語に耳を傾けながら必要に応じて使い、母語を使うことを最初は禁じるわけではありません。ただ、児童がほぼ「内容に集中している」という状態を創りだしています。どのような内容でもCLILに適しているかという点、そうではなく、見える教材の“reality”や作り出しがあることが重要なポイントです。教えている教員は、「英語の先生」ではなく「担任や教科の先生」です。寧ろ「担任や教科の先生」のほうが自分の専門性を発揮しておられアイデアが豊富です。

「やっぱり先生が英語を使わないといけないの？」ということになりそうですが、よく耳を傾けてみると英語はそんなに難しいものではありません。台湾のCLIL「ものづくり」の授業では、“Look at this slide.” “What tool are you going to use to fix drywall corner?” などという英語が聞こえ、これは小学校外国語活動で使う「クラスルームイングリッシュ」の応用です。フィンランドのCLIL「歴史」の授業では、ヨーロッパ各国の国旗の色や硬貨のデザインから、独立の意義を考えさせていました。もちろん英語力

は国ごとで異なります。また、CLIL 授業だけで児童の英語が伸びるのではなく、カリキュラムでは、「英語学習」の柱と「CLIL」は二本立てです。英語表現の基礎となる学びの基盤を持ちながら、「CLIL」で実際に言葉を使い思考する場面を創出しているのです。CLIL は内容が 50%、言語が 50% なのです (Coyle et al., 2010)。

2) CLIL のコツ

まず、CLIL は、図 1 のように 4 つの C: Content、Communication、Cognition、Culture(Community) を含みます。

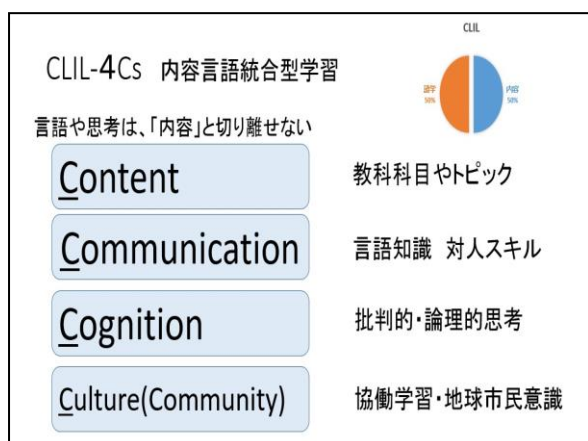


図 1 CLIL の 4 Cs

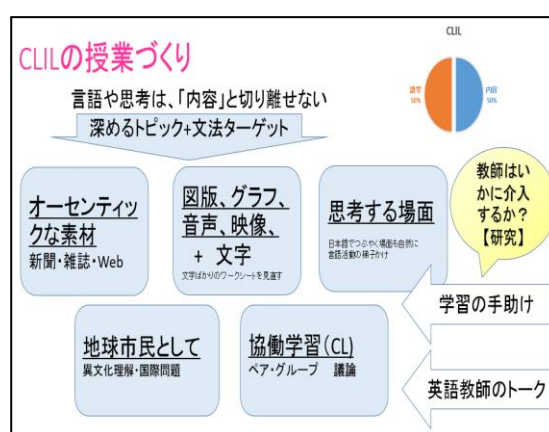


図 2 CLIL の授業作り 5 つのポイント

言語の学びと思考は、「内容」と切り離せないなので、内容を深めるために図 2 の 5 つのポイント：1) オーセンティックな素材、2) 図版やグラフ・映像、3) 思考を深め話し合う場面、4) 地球市民としての視野、5) ペアやグループなどの共同学習、を入れることが大切です。全体の授業構成を教師が考え、児童が学習を深められるよう段階的に介入して手助けをしたり、ポートフォリオで児童の学びを見取って修正を加えたりしていきます。教師の介入というのは、先生が英語を使って児童の思考を促すために質問をしたり、やりとりをしたりすることも含みます。思考場面での児童の様子は、「英語を使おう」ということはすっかり忘れて内容に集中しているので、初級のクラスでは母語のつぶやきもあり、それを聞いていると児童が一生懸命考えているということが伝わってきます。教員はこのつぶやきを母語であれ英語（外国語）であれ、しっかり受け止めて児童に関わっていくことが大切です。

3) CLIL の実践

日本での実践例を表 1 にあげてみました。①『Hi! Friends』で、小学校の教員にはおなじみです。② 学生が教育実習に向けて実践したものです。外国語活動は「英語を勉強しなくては。」と、児童なりに思っているようですが、CLIL の授業では英語を学ぶというより、「英語を勉強しているのに、理科や社会のことも学べる。」と目を輝かせて取り組む姿が見られます。




図3 「地図記号で町めぐり」 (日本) 図4 「Soap Film : 表面張力」 (韓国) 図5 「日本のアニメで起承転結」 (オーストリア)

図3は、表1-③の「地図記号で町めぐり」の写真です。図4は、韓国の小学校で実践した「Soap Film : 3D立体と表面張力」です。図5は、オーストリアの小学校で実践した「日本のアニメで起承転結」です（大阪教育大学フィンランド海外教育実習プロジェクト）。

実践のコツは、難しく考えず他教科で担任が既に持っている題材と、児童がまるごと表現で使えるような英語を合わせ、思考と協同が必要になる場面を創っていくことです。キーワードはチャンツやカードで親しませるとよいでしょう。児童は、最初はまるごと表現の意味がすぐ分かるわけではありませんが、具体的な場面で何度も聞くので意味が分かり、表現に慣れ親しんでいきます。ときには、表現の一部を上手く入れ替えていることもあります。しかし、題材選びや教材作りは手間もかかりますので無理をせず、1年に一つか二つのCLILを、学年の先生や専科の先生と共同で作ってみてください。また児童の反応に対して英語でどんなふうに声かけをしていくか（ティーチャー・トーク）、ALT（外国語指導助手）と協力し表現を書き残していくことで、教師の英語力を伸ばすことにも繋がります。「教えることは学ぶこと」です（2014年『教育プロ』掲載）

表1 CLILの実践例（日本）

題材と主な英語表現	思考と協同の場面	教材
① 「オリジナル T シャツ」 "How are you?" "I am happy." "What color (shape) do you like?" "I like blue (triangles)." [図工・造形]	『Hi! Friends 1』 Lesson 5 の発展 友達の好きな色や気持ちを表す色を互いに聞きあい、相手の T シャツを考えてデザインする（ペアが学習）。できた作品でどんな気持ちが伝わるか考える。	12色カラー絵の具 T シャツ（画用紙） 気持ちを表す色彩の紹介 町のポスターや店のロゴなど、ポップデザインの映像や写真
② 「地図記号で町めぐり」 "Take me to the post office." "Go straight and turn left."	『Hi! Friends 』 Lesson 4 の発展 社会で習った地図記号で町のシンボルと位置を学び、英語で道案内	町や校区の大地図 地図帳 地図記号カード

<p>Here." "Let me show you map symbols in other countries." [社会]</p> 	<p>する (ペア学習)。外国と日本の地図記号の違いを比較し、町の形状の違いに気づく。自分の町にあるオリジナル地図記号を創って紹介する(例:ベンチ記号 動物園記号 コンビニ記号)</p>	<p>外国の地図記号紹介とクイズ Google Earth 等から外国の町の映像</p>
--	---	--

4) CLIL の可能性

他教科の授業を出来る限り英語で発信していると、おもしろいことに気づきます。CLIL の授業は、海外から学校訪問に来られた方にも理解ができて興味深いものなのです。通訳がなくてもわかってもらえるのです。そこで、筆者の所属する大学では、小学校や中学校教員をめざす学生や現職の院生が、CLIL の授業を手作りし、「海外教育実習プロジェクト」で海外の児童たちに授業することに取り組んでいます。CLIL の授業は海外でも他教科の教員が興味を持って参観されます。図6は、フィンランドの小学校6年生で実践した「Paper Plane : 飛行機の揚力を考える」です。授業が生まれるまでには時間も手間もかかり、指導案は全て英語で作成して訪問先小学校に送ります。しかし、このプロジェクトをとおして各教科の専門性を持つ学生はかけがえのないことを学びます。

CLIL の授業への取り組みは、国と国との言葉や文化の壁を越えさせ、児童が授業をとおして何を思考し何をつぶやくか、それに対して教師はどのように介入して支援するか深く予想させます。また、【反応にあわせた臨機応変な対応の難しさ】【教師のひとことが子どもに考えさせ意欲を引き出していること】【英語で授業をするから掴んだ授業の軸】【海外から見つめ直した日本の教育】などに気づく姿があります。筆者は、小学校外国語活動だけでなく英語教育全般に CLIL を積極的に取り入れることで、「日本ならではの授業」を世界に発信し視野を拡げることができると確信しています。



様々な飛行機設計図から

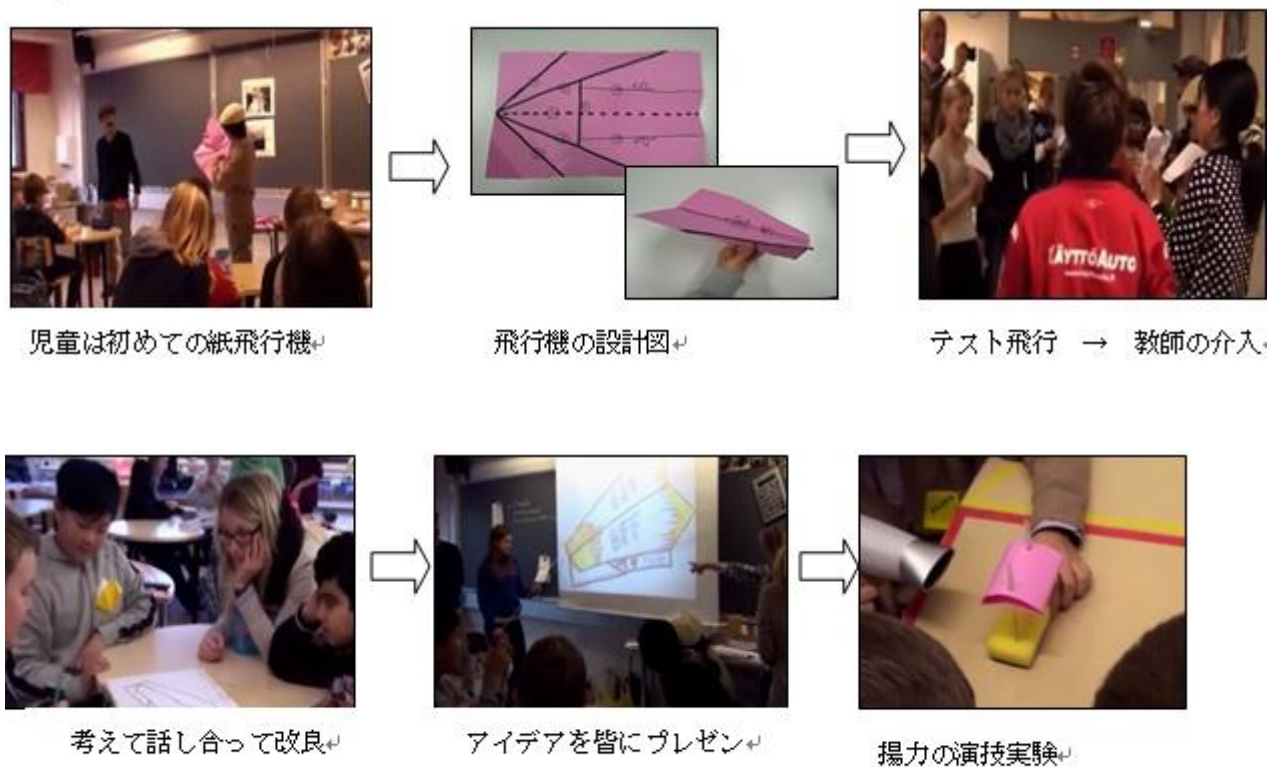


図6 大阪教育大学海外教育実習 CLIL 理科 Paper Plan (フィンランドにて)

参考文献

Coyle, D., Hood, P., & Marsh, D. (2010). *CLIL: Content and language integrated learning*. Cambridge University Press.

笹島茂 (編) (2011). 『CLIL 新しい発想の授業：理科や歴史を外国語で教える!?』 東京：三修社

◇本手引きの考え方

音声から文字への段階的指導とその時期

英語の音声面は、英語らしい音の創り出し（発音）と、音声と文字の結びつきの導入に分けられる。この両方を支えるのは音韻(音素)認識の指導であるが、日本ではあまり指導されてこなかった。日本語は、音と字が一対一対応する表音主義に近く、「つくし」は、一つの音に一つの平仮名が当てられ音声と綴りであまり苦勞することがない。英語は、表音主義から離れた綴りをする（「a」一つでも、**cat**、**take**、**father**、**water**、と多くの音を表す）。教師は、日本語と同じように英語もすぐ読めるはずだと思込みやすいのだが、現状の中学生が音素認識なしで「英単語が読める」のは記憶型学習に拠るもので、英語の音素認識（**ship** : /sh/i/p の三つの音素）を持って個々の音素の発音で「読める」こととは、異なる。

下の表は、アメリカ合衆国における移民の子どもたちが 5 年をかけて受ける指導「音声から文字への 5 ステップス」(Bear et al, 2007) から、筆者が日本に応用して整理したものである。今後、小学校ではステップ 1、2 の音韻認識指導が重要だと考えられる。また、ステップ 3~5 が小中連携で時間をかけて行われることが大切であり、国語としてのローマ字の習熟徹底が、英語の音声と綴りとの違いに気づかせるための基本になる(柏木、2014)

音声から文字への 5 ステップス

段階	概念	代表的な例
1	Pre-phonemic (音韻認識以前)	ローマ字指導の徹底 文字認識 大文字・小文字の一致 音韻を聞き取る遊び
2	Phonemic awareness (音韻認識) Blending (音をつなげて単語を作る)	先頭音の聞き分け 例 (C-c/D-d) 音素 (phonemes) のカテゴリー 例 (Odd-One-Out) 音や音素をつなげる 例 (cat : c/a/t c /-at)
3	Rhyming & Alliteration (終わりを出だしの音) Blending Within word pattern (真ん中の音)	ライミング sail- mail アリタレーション black-bloom 単語パターン内の発見と一般化 : foot-wood 音素をつなぐ bl-/st-/pl- m+ice/b+oo+k/ 単語と綴り フォニックス基礎
4	Syllables (音節) Prefixes & Suffixes (接頭辞・接尾辞)	音節単語のカテゴリー化 oc·to·pus オンセット・ライム gr·een /p·ost 単語カテゴリー (word tree) とコアの意味 例 (co-/ -ation) 単語と綴り フォニックス応用
5	Decoding (音素認識から読む) Advanced reading · writing	音素カテゴリー化 フォニックスルールハント 詩やストーリーをペアで読む (shared reading) 絵と短いストーリーを書く

引用文献

Bear, R. et al.(2007). *Words their way: Word study for phonics, vocabulary, and spelling instruction*.
Prentice Hall.

柏木賀津子 (2014) . 「小学校における英語教育 (外国語活動)」『英語教育学の今-理論と実践の統合-』

卯城祐司 (編) 全国英語教育学会 pp.20-23.

◇主な参考文献

Calabrese,I.,& Rampone,M.(2011). *Cross-Curricular Resources for Young Learners*. Oxford University Press.

Calkins,M.C.,&Harwayne.S.(1987) .*The writing workshop: A world of difference*,Heinemann

Charlesworth,L.(2000). *Word Family Wheels*. Scholastic. NY.

Hunt,R.(2008).*Oxford Reading Tree*. Oxford University Press.

Kashiwagi,K.,& Tomecsek,J.(2015). How CLIL classes exert a positive influence on teaching style in student centered language learning through overseas teacher training in Sweden and Finland. *Procedia-Social and Behavioral Sciences*,177,79-84.

Paul,D.(2006). *New Finding Out 1&2*. MACMILLAN

Shaw,G.(1997). *Hello Reader! Activity Book*. Scholastic.NY.

Sobut,A.M.,&Bogen,N.B.(1993). *Whole Language Literature Activities For Young Children*. The Center for Applied Research in Education. NY.

*Word Family:Sing-Along (Flip Chart &CD) Scholastic.NY. (音素に親しめる多くの替え歌 CDつき)

アレン玉井光江 (2010) 『小学校英語の教育法』 大修館書店

阿部フォード恵子(2001) 『Let's sing together : Fun Book』 アプリコット

中本幹子 (2011) 『Click on Phonics シリーズ READING BOOK "Cat,Hen,Pig,Fox and Snake,RUN!"』 アプリコット

松香フォニックス研究所 (2003) 『Phonics Activities for Fun』 松香フォニックス研究所

松香フォニックス研究所 (1999) 『72 Activities for Elementary School English』 松香フォニックス研究所

松香洋子・田縁眞弓 (2009) 『We Can!フォニックスワークブック 1』 (日本版) CD付 mpi

中本幹子(2001) アプリコット Picture Book シリーズ. アプリコット出版

(語彙の少ない日本の子どもにも親しみやすい Activity のヒントがある絵本)

写真取材協力

日本 大阪府寝屋川市内小学校

イタリア ピネロロ市立シルクロ小学校

イタリア ソレント市内小学校

フィンランド オーボアカデミー大学附属実習校

アメリカ合衆国 ボストン市内小学校

◇編集後記

『音声から文字へのゆるやかな5ステップス』(手引き)は,三つのCを大切にしています。

Classroom (40人の学級で,担任の先生が取り組みやすい活動)

Communication (友だちとペアワークやグループワークでできる文字指導の活動)

Cognition (音韻や音素・文のパターンに気づくよう,子どもの認知力に深く働きかける活動)

本手引きは,筆者が海外で子育てをしたときに,学校で習ってくる英語の文字の習い方が,私自身が中学校のときに習った方法と全く異なることに気づいた経験に基づいて,帰国後は小学校での担任として40人学級取り組んでみた活動を主としています。できるだけ体験的に,友だちと英語を楽しんでほしいと思い,音韻認識やフォニックス指導の専門書を読み,試してみる毎日でした。その後も各国の小学校英語を見学し,フィールド研究をするうちに,日本の英語文字指導だけが今もなお,「文字をなぞれば読める」という誤解のなかで,英語が読めない,難しいと感じる中学生が多い謎がわかってきました。

また,最近では,フォニックス研究の成果を,小学校に性急に取り入れようとするあまり,せっかくの音声からの意味のある英語活動がだいなしになる様子も見受けます。子どもの毎日の生活は,クラスルームのなかに息づいており,楽しい学級掲示に囲まれています。そういう環境を活かさずに,フォニックスのDVDを見せるだけ,早く文字を書かせようと書き写しプリントを配るだけでは,子どもは自分から文字を読むようにはなりません。学級担任のアイデアを活かせば,子どもが自ら学ぼうとするような環境を英語でも作れるはずです。そこで,縦横斜めに子どもの発達段階と,他教科のカリキュラムを把握し,フォニックスシーケンス(フォニックスを教える研究成果としての順番)にとらわれすぎず,しかし,指導原理は踏まえた指導ができればと,この5ステップスを作成しました。基本的枠組みはボストンでフィールド研究をした,オバマ大統領の「おちこぼれを出さない運動」で提唱される5段階の指導の前半を,日本の小学校の発達段階に合わせて応用しています。椅子に座って書き写すよりも,聞く,見る,さわる,おはじきを動かす,トレーシングペーパーでさがす,音素かたまりでジャンプする等,認知力にはたらきかける活動が多いので大変に見えますが,人は「手間ひまをかけて学ぶ」(理解への手続きをする)と定着が早いからこの方法を選んでいきます。

この手引きの試行には,寝屋川市教育委員会の中田葉月指導主事,遠藤千晶指導主事,担任の先生,英語の専科の先生が協力してくだり,実際に子どもたちと試みて下さいました。また,『耳を澄ましてクイズ』をチャレンジ前に行い,1年後の進み具合も検証していただきました。成果としては,友だちとペアやグループでする活動が多いので,どの子どももしっかりついて来ること,音韻認識が養われること,単語の先頭や末尾に注意を向けて聞けることが挙げられます。無理なく3~4文字の単語の読みが推測できることでCLIL等の意味のある活動と思考の助けにもなっています。本手引きの作成にご協力くださった,寝屋川市の先生方に感謝を記します。また,本文の挿絵を描いてくれた,大阪教育大学学生,本村恵里子さん,手引きの活動を模擬授業で行い創意溢れるアイデアをくれた大阪教育大学の大学院生と学生にも感謝を記します。

本手引きは,引き続いて教室の先生方や学生からのフィードバックを活かして創り続けていく予定です。

平成 28 年 2 月 1 日印刷

平成 28 年 2 月 5 日発行

発行 大阪教育大学 英語教育研究室

住所 〒543-0054 大阪市天王寺区南河堀町 4-88 TEL06-6775-6636

印刷 カツヤマ印刷